

社会福祉法人 青祥会 年報 令和5年度(2023年度)

年 報 2023

社会福祉法人
青祥会
年報

令和5年度(2023年度)



社会福祉法人
青祥会



社会福祉法人
青祥会

SEISHOKAI

社会福祉法人 青祥会 年報 令和5年度(2023年度)

年 報 2023



社会福祉法人
青祥会

目 次

I	はじめに	5
II	法人の概要	9
III	第3期中期経営計画	19
IV	事業報告	23
V	委員会・部会活動	33
VI	教育研修・外部表彰	45
VII	行事	51
VIII	青祥会における 新型コロナウイルス感染防止対策	53
IX	数値・統計データ	57

わ げん あい ご 和 顔 愛 語

にこやかな顔

やさしい言葉で人に接すること

いただく喜びよりも与える喜びを知る人ほど

幸福な人はないということ

理 念

人間愛に基づき、和顔愛語の心を基本理念として、
心豊かな安らぎのある地域社会の推進と充実に貢献することに努める。

基本方針

- I 私たちは、生命の尊さを大切にし、人権を尊重します。
- II 私たちは、誠心誠意、思いやりとやさしさを持って接します。
- III 私たちは、常に向上心を持って専門的サービスを提供します。
- IV 私たちは、公共性・透明性・経済性を大切にします。
- V 私たちは、地域と共に医療・介護・福祉の充実を目指します。

I はじめに

ご挨拶

令和5(2023)年度の年報発刊に当たり、挨拶申し上げます。

社会福祉法人青祥会は、昭和57(1982)年3月の開設から創立41年、セフィロト病院は、昭和33(1958)年の開設から創立65年を迎えました。今日までご支援賜りました地域や医療・福祉関係、また、有志やボランティアの皆様にご心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、令和元(2019)年12月に中国湖北省武漢市にて発生した新型コロナウイルス感染症は、脅威の感染力で瞬く間に感染が世界中に拡大し、青祥会においてもこれまで感染防止対策に徹底的に取り組んで参りました。

我が国では、令和5(2023)年5月8日付けで新型コロナウイルス感染症は、2類相当から5類へ移行となりました。5類となったことにより政府の新型コロナウイルス感染症に対する方針が緩和される中、青祥会は法人独自の基準を制定し、令和5年度も感染防止対策の徹底を継続して参りました。今後も引き続きこれまでの経験を活かし感染防止対策の徹底を図り、適正・適切な管理運営の下、病院・施設運営の継続に尽力して参ります。

また、現在世界的に取り組みが進められていますSDGsは、地球・自然環境の保全等持続可能な社会の実現が掲げられていますが、青祥会はSDGsの実現に向け、人の暮らしをより豊かに、より幸せにするという持続可能な地域社会の実現に貢献して参ります。

令和5(2023)年度は、青祥会の第3期中期経営計画の仕上げの年であり、各施設で策定しました活動(行動)計画を推進するとともに、次の5つの重点項目を中心に各事業を推進し、青祥会の「理念」と基本理念である「和顔愛語」の心を大切に、地域医療・地域福祉の実践に努めて参りました。

関係機関、地域の皆様には本誌をご覧いただき、青祥会の現況、活動内容をより深くご理解いただければ幸いです。

社会福祉法人 青祥会

理事長 畑下 嘉之



1. 医療・介護サービス向上の取組

全ての感染症等に対し、今後も青祥会が設置した「新型コロナウイルス感染症対策室」を中心に感染防止対策の徹底を図り、患者・利用者の社会復帰と自立を目指し、質の高い医療・介護サービスの提供に努める。住み慣れた地域で相互に助け合い、安心して暮らしていける地域包括ケアシステムとしての「青祥会ケアシステム」を身近な地域に広め医療・介護等の一体的なサービスの提供に努める。また、介護予防・健康づくり、健康寿命延伸が実現できる地域の拠点としての「和田の森」の整備構想を立案する。

2. 地域貢献活動の取組

社会福祉法人は、高い公益性・公共性に鑑み、地域の福祉ニーズを踏まえつつ、自主性や創意工夫による多様な地域貢献活動が求められている。各施設・各事業所単位でそれぞれの地域ニーズの特性を把握し住民の思いに即した地域貢献活動を実施する。また、長引くコロナ禍の中、感染防止対策の徹底を図り、今後の地域の将来を担う小中学生・高校生等に医療・介護等の出前講座の実施、更には実習生も積極的に受け入れ地域全体の人材確保に努める。

3. 人材の確保・育成の取組

医療・介護分野においても、人材不足は極めて切実な重要課題である。そのため学校訪問や就職フェアへの参加、外国人(中国・ベトナム等)労働者の確保と育成に努めると共に人材の定着として、科学的介護の取り組みを初めロボットの導入、キャリアパス制度等の充実を図る。また、新型コロナウイルス等の感染防止対策による疲労を考慮して、職員の心身の健康づくりの

ため気軽な相談窓口の設置やストレス解消の手立てを考える。更には、メンタルヘルス対策とストレスチェック制度の実施並びに有給休暇取得の促進に取り組む。

4. 組織強化の取組

組織強化は、青祥会の成長を支える原動力であり経営の基本である。組織を強化し地域の皆様から信頼を得るため、社会人として自らを厳しく律し、法令・規則・ルール等を遵守するというコンプライアンスの徹底に努めていく。また、青祥会は、女性が活発に活躍する職場であり、一層の女性職員の役職登用により組織の活性化を図る。更には、電子カルテ等の活用により記録の簡素化と業務の改善・効率化を推進し、子育て等の家庭と仕事が両立できる働きやすい職場環境づくりに努める。

5. 経営基盤充実の取組

全ての感染症等に必要物品の一括管理の下、計画的な購入と施設間相互の助け合いにより有効活用を図る。また、業務の効率化・省力化・分散化による人件費率の適正化、更に事務費・事業費等のこれまで以上の経費削減に努め各施設の健全経営を図り、青祥会全体でサービス活動収支比率3%以上の確保を目指す。患者・利用者が安心できる病院・施設としての計画的な改修等に取り組み快適な療養環境づくりを進めていく。

以上について、長引くコロナ禍の中、社会福祉法人としての責務を着実に果たし、地域における医療・介護・福祉の発展に貢献していく。

Ⅱ

法人の概要

法人設立1982年 (昭和57年) 3月8日

事業 区分	事業名称	定員	事業開始年月日	所在地
第1種	特別養護老人ホーム 青浄苑	108	1982年 (昭和57年) 11月25日	長浜市加田町2995
	特別養護老人ホーム 坂田青成苑	100	1992年 (平成 4年) 4月21日	米原市野一色1136
	ケアハウス さかた	15	1997年 (平成 9年) 3月 1日	米原市野一色1136
	特別養護老人ホーム 青芳	50	1998年 (平成10年) 10月 1日	長浜市川道町2572
	ケアハウス アシ・アエ	15	1998年 (平成10年) 10月 1日	長浜市川道町2572
	特別養護老人ホーム やまびこ (※1)	50	1999年 (平成11年) 12月 1日	愛知郡愛荘町安孫子1235
	特別養護老人ホーム アンタレス (※2)	70	2008年 (平成20年) 4月 1日	長浜市加田町3360
社会福祉事業	青浄苑ショートステイ 青浄苑ショートステイ (介護予防)	9	1982年 (昭和57年) 11月25日	長浜市加田町2995
	坂田青成苑ショートステイ 坂田青成苑ショートステイ (介護予防)	10	1992年 (平成 4年) 4月21日	米原市野一色1136
	坂田デイサービスセンター 【休止中】 坂田デイサービスセンター (総合事業) 【休止中】	30	1992年 (平成 4年) 4月21日	米原市野一色1136
	ショートステイ青芳 ショートステイ青芳 (介護予防)	20	1998年 (平成10年) 10月 1日	長浜市川道町2572
	デイサービスセンター青芳 デイサービスセンター青芳 (総合事業)	40	1998年 (平成10年) 10月 1日	長浜市川道町2572
	長浜長寿デイサービスセンター 長浜長寿デイサービスセンター (介護予防)	12	1999年 (平成11年) 6月 1日	長浜市朝日町19-3
	やまびこショートステイ やまびこショートステイ (介護予防)	20	1999年 (平成11年) 12月 1日	愛知郡愛荘町安孫子1235
	デイサービスセンターやまびこ デイサービスセンターやまびこ (総合事業)	40	1999年 (平成11年) 12月 1日	愛知郡愛荘町安孫子1235
	山東デイサービスセンター 山東デイサービスセンター (総合事業)	40	2001年 (平成13年) 4月 1日	米原市長岡1050-1
	長浜西部デイサービスセンター 長浜西部デイサービスセンター (総合事業)	40	2001年 (平成13年) 7月 1日	長浜市朝日町19-3
	長浜西部福祉ステーション		2001年 (平成13年) 7月 1日	長浜市朝日町19-3
	アンタレスショートステイ (※2) アンタレスショートステイ (介護予防) (※2)	20	2008年 (平成20年) 4月 1日	長浜市加田町3360
	アンタレスデイサービスセンター (※3) アンタレスデイサービスセンター (総合事業) (※3)	40	2008年 (平成20年) 4月 1日	長浜市加田町3360
	アンタレスホームヘルパーステーション (※3) アンタレスホームヘルパーステーション (総合事業) (※3)		2008年 (平成20年) 4月 1日	長浜市加田町3360
	グループホームおりひめ・ひこぼし (※4)	12	2012年 (平成24年) 4月 1日	長浜市寺田町263-4

事業区分	事業名称	定員	事業開始年月日	所在地
公益事業	介護老人保健施設長浜メディケアセンター	104	1993年(平成 5年) 9月 7日	長浜市加田町2984-1
	介護老人保健施設長浜メディケアセンター (短期入所療養介護)			
	介護老人保健施設長浜メディケアセンター (介護予防短期入所療養介護)			
	介護老人保健施設長浜メディケアセンター (通所リハビリテーション)	40	1993年(平成 5年) 9月 7日	
	介護老人保健施設長浜メディケアセンター (介護予防通所リハビリテーション)			
	坂田ケアプランセンター		1999年(平成11年) 8月20日	米原市野一色1136
	ケアプランセンター青芳		1999年(平成11年) 8月20日	長浜市川道町2572
	介護老人保健施設坂田メディケアセンター	130	1999年(平成11年)12月 1日	米原市野一色1136
	介護老人保健施設坂田メディケアセンター (短期入所療養介護)			
	介護老人保健施設坂田メディケアセンター (介護予防短期入所療養介護)			
	介護老人保健施設坂田メディケアセンター (通所リハビリテーション)	40	1999年(平成11年)12月 1日	
	介護老人保健施設坂田メディケアセンター (介護予防通所リハビリテーション)			
	秦荘ケアプランセンター		1999年(平成11年)12月28日	愛知郡愛荘町安孫子1235
	西部ケアプランセンター		2001年(平成13年) 6月 1日	長浜市朝日町19-3
	アンタレスケアプランセンター (※3)		2008年(平成20年) 4月 1日	長浜市加田町3360
	アンタレス訪問看護ステーション (※5) アンタレス訪問看護ステーション (介護予防) (※5)		2009年(平成21年) 7月 1日	長浜市加田町3360
	セフィロト病院 (精神科・老年精神科・内科) (※6)	179	2012年(平成24年) 4月 1日	長浜市寺田町257
	介護職員初任者研修(介護職員初任者研修課程(通学))	40	2013年(平成25年) 5月13日	長浜市加田町3360
	介護福祉士実務者研修 (実務者養成施設通信過程)	40	2014年(平成26年)10月 1日	長浜市加田町3360
	南長浜地域包括支援センター (※7) 南長浜地域包括支援センター (介護予防支援)		2016年(平成28年) 4月 1日	長浜市朝日町19-3
	訪問リハビリテーション坂田メディケアセンター (訪問リハビリテーション) (※8) 訪問リハビリテーション坂田メディケアセンター (介護予防訪問リハビリテーション) (※8)		2021年(令和 3年) 8月 1日	米原市野一色1136

全59事業 (令和6年3月31日現在)

- ※1 介護保険法指定名称：指定介護老人福祉施設やまびこ
- ※2 2007年 (平成19年) 4月 1日 青浄苑増床として開設、2008年 (平成20年) 4月 1日分離独立
- ※3 2007年 (平成19年) 4月 1日にアンタレスに移転、2008年 (平成20年) 4月 1日に名称変更
アンタレスデイサービスセンター (1993年 (平成 5年) 9月 1日 青浄苑デイサービスセンターとして開設)
アンタレスホームヘルパーステーション (1997年 (平成 9年) 10月 1日 青浄苑ホームヘルパーステーションとして開設)
アンタレスケアプランセンター (1999年 (平成11年) 8月20日 長浜ケアプランセンターとして開設)
- ※4 2014年 (平成26年) 4月 1日名称及び定員変更
(2003年 (平成15年) 4月 1日 長浜青樹会病院により萌芽寮として運用開始、2012年 (平成24年) 4月 2日 セフィロト病院より事業譲渡)
- ※5 2009年 (平成21年) 7月 1日にアンタレスに移転 (1995年 (平成 7年) 5月31日 訪問看護ステーションさかたとして開設)
- ※6 1958年 (昭和33年) 4月16日 財団法人青樹会八幡精神病院長浜分院として開院
2009年 (平成21年) 3月 長浜青樹会病院セフィロトヘルスケアに名称変更
2012年 (平成24年) 4月 1日 財団法人青樹会から社会福祉法人青祥会へ事業譲渡、セフィロト病院に名称変更
- ※7 2016年 (平成28年) 長浜市より受託し、長浜西部福祉ステーションにて事業開始 (介護あんしん窓口湖島の里、介護あんしん窓口アンタレス受託終了)
- ※8 2021年 (令和3年) 8月 1日訪問リハビリテーション事業開始 (坂田メディケアセンター)

1982年 (昭和57年)	1月29日	社会福祉法人青祥会設立認可 (厚生省社第54号)
	3月8日	社会福祉法人青祥会設立
	11月25日	特別養護老人ホーム青浄苑開設 (定員50名、短期入所5名)
1983年 (昭和58年)	6月1日	特別養護老人ホーム青浄苑定員増 (定員50名→55名)
1986年 (昭和61年)	12月10日	滋賀県痴呆性老人処遇技術研修施設指定 (青浄苑)
1987年 (昭和62年)	4月1日	特別養護老人ホーム青浄苑新館増築 (定員55名→80名、短期入所5名→7名)
1989年 (平成元年)	10月2日	長浜市デイサービスセンター運営受託 (長浜市民交流センター)
1992年 (平成4年)	4月21日	特別養護老人ホーム坂田青成苑開設 (定員50名、短期入所10名) 坂田デイサービスセンター、 坂田在宅介護支援センター、 痴呆性老人在宅介護促進施設併設
1993年 (平成5年)	9月1日	特別養護老人ホーム青浄苑別館増築 (定員80名→100名、短期入所7名→17名) 青浄苑デイサービスセンター、 長浜市在宅介護支援センター(青浄苑)併設
	9月7日	介護老人保健施設 長浜メディケアセンター開設(定員104名) 通所リハビリセンター併設
1995年 (平成7年)	5月31日	訪問看護ステーションさかた開設
1997年 (平成9年)	3月1日	ケアハウスさかた開設(定員15名) 特別養護老人ホーム坂田青成苑増築 (定員50名→90名、短期入所10名→20名)
	4月1日	坂田デイサービスセンター(E型)併設
	10月1日	長浜市巡回型 24時間ホームヘルプサービス開始
1998年 (平成10年)	10月1日	特別養護老人ホーム青芳開設 (定員50名、短期入所20名) デイサービスセンター青芳、 在宅介護支援センター青芳併設 ケアハウスアシ・アエ開設(定員15名)
1999年 (平成11年)	6月1日	長浜長寿デイサービスセンター運営受託 (長浜市八幡東町長浜市役所東別館)

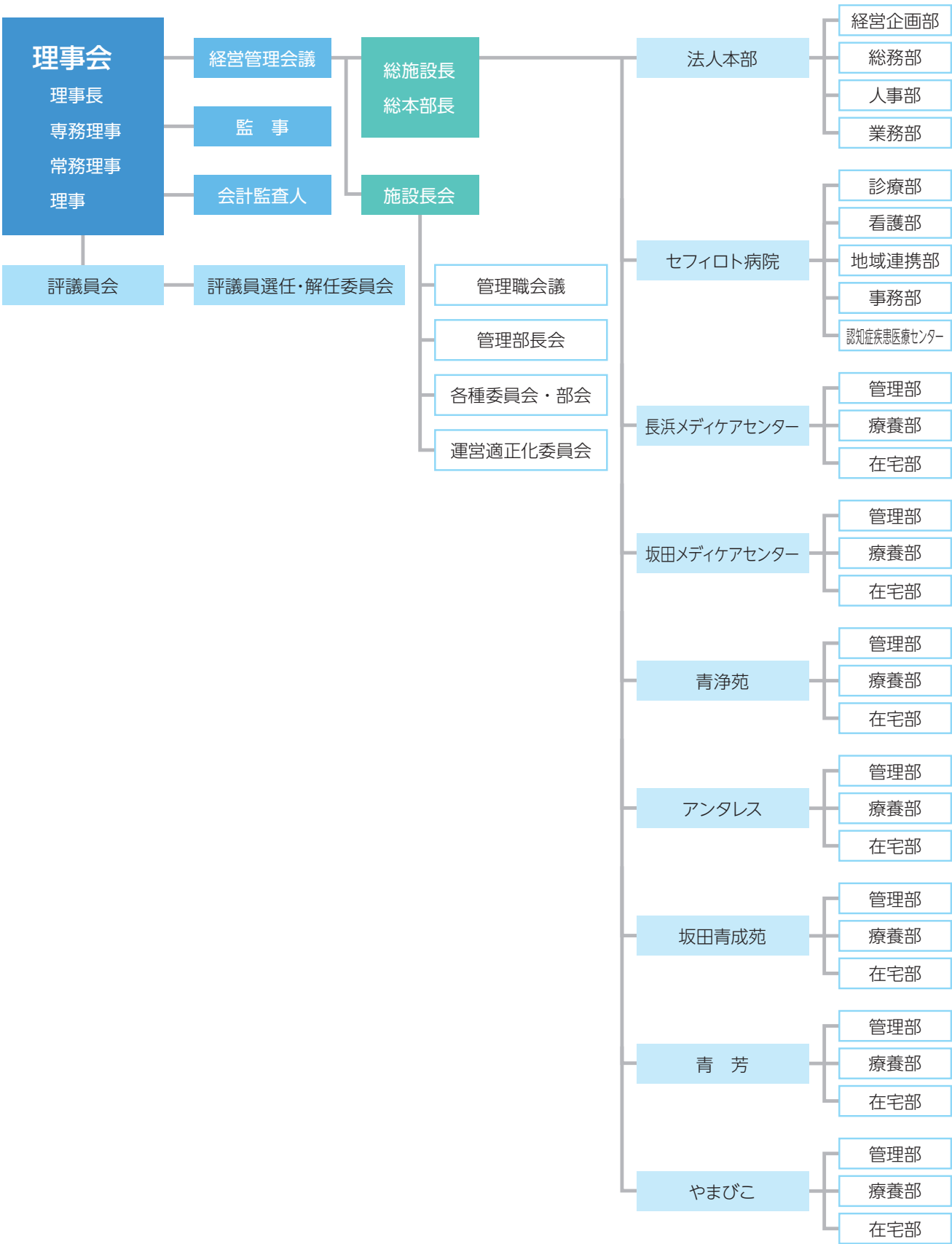
1999年 (平成11年)	8月20日	指定居宅介護支援事業所 長浜ケアプランセンター開設 指定居宅介護支援事業所 坂田ケアプランセンター開設 指定居宅介護支援事業所 東浅井ケアプランセンター開設
	12月1日	介護老人保健施設 坂田メディケアセンター開設(定員85名) 通所リハビリセンター併設 特別養護老人ホームやまびこ開設 (定員50名、短期入所20名) デイサービスセンターやまびこ、 在宅介護支援センター秦荘併設 指定居宅介護支援事業所 秦荘ケアプランセンター併設
2000年 (平成12年)	3月1日	訪問看護ステーションいるか開設
	4月1日	青浄苑ホームヘルプステーション開設 (長浜市巡回型24時間ホームヘルプサービス /1997年(平成9年)より移行) やまびこ身体障害者デイサービスセンター併設
	4月1日	山東デイサービスセンター運営受託 (米原市民交流プラザ)
2001年 (平成13年)	6月1日	指定居宅介護支援事業所 西部ケアプランセンター開設 (西部福祉ステーション) 長浜市西部在宅介護支援センター開設 (西部福祉ステーション)
	7月1日	長浜西部デイサービスセンター運営受託 (長浜市民交流センター/平成元年より移設 →長浜西部福祉ステーション)
	4月1日	介護老人保健施設 坂田メディケアセンター新館増築 (定員85名→130名)
2004年 (平成16年)	11月1日	訪問看護ステーションさかた 「サテライトながはま」設置
2005年 (平成17年)	11月3日	特別養護老人ホーム青浄苑大規模修繕ブライ トケア(光療法)導入
2006年 (平成18年)	4月1日	東浅井ケアプランセンターをケアプランセンター 青芳に改称
2007年 (平成19年)	4月1日	特別養護老人ホーム青浄苑アンタレス開設 (定員60名、短期入所30名 全室個室、1ユニット10人)
2008年 (平成20年)	3月1日	介護老人保健施設 長浜メディケアセンター大規模修繕

2008年 (平成20年)	4月1日	アンタレスを青浄苑から分離独立し、 「特別養護老人ホームアンタレス」および 「アンタレスデイサービスセンター」 「アンタレスホームヘルプステーション」 「アンタレスケアプランセンター」 「介護あんしん窓口アンタレス」に改称
2009年 (平成21年)	7月1日	訪問看護ステーションさかた(サテライトなが はま)の拠点を米原市野一色から長浜市加田 町に移し、「アンタレス訪問看護ステーション(サ テライトさかた)」を設置
2010年 (平成22年)	5月1日	アンタレスデイサービスセンター定員増 (定員35名→40名)
2012年 (平成24年)	4月1日	セフィロト病院開院 (精神病床179床/内指定病床数20床) グループホーム萌黄寮開設(定員6名)
2014年 (平成26年)	4月1日	グループホーム萌黄寮からグループホームおり ひめに名称変更 グループホームひこぼし開設(定員6名)
2015年 (平成27年)	5月1日	特別養護老人ホーム坂田青成苑定員変更 (定員90名→100名、短期入所20名→10名) セフィロト病院認知症治療病棟59床事業開始 (精神一般病棟60床、精神療養病棟119床 →60床、認知症治療病棟59床)
	10月1日	セフィロト病院認知症疾患医療センター開設
2016年 (平成28年)	3月31日	介護あんしん窓口受託終了
	4月1日	南長浜地域包括支援センター受託開設
2018年 (平成30年)	6月1日	特別養護老人ホームアンタレス定員変更 (定員60名→70名・短期入所30名→20名)
2019年 (令和元年)	5月1日	特別養護老人ホーム青浄苑定員変更 (定員100名→104名、短期入所17名→13名) 特別養護老人ホーム青芳定員変更 (定員50名→54名、短期入所20名→16名)
	8月1日	訪問リハビリテーション坂田メディケアセンター 開設
2021年 (令和3年)	7月1日	特別養護老人ホーム青浄苑定員変更 (定員104名→108名、短期入所13名→9名) 特別養護老人ホーム青芳定員変更 (定員54名→50名、短期入所16名→20名)
2023年 (令和5年)	7月31日	坂田デイサービスセンター休止
	8月1日	山東デイサービスセンター定員増 (定員30名→40名)

1982年(昭和57年)
特別養護老人ホーム青浄苑
建設予定地の造成に着手1982年(昭和57年)
青浄苑(長浜市加田町)開設 最初の入所者として4名入苑2007年(平成19年)
特別養護老人ホーム青浄苑アンタレス開設2012年(平成24年)
セフィロト病院(長浜市寺田町)
開設

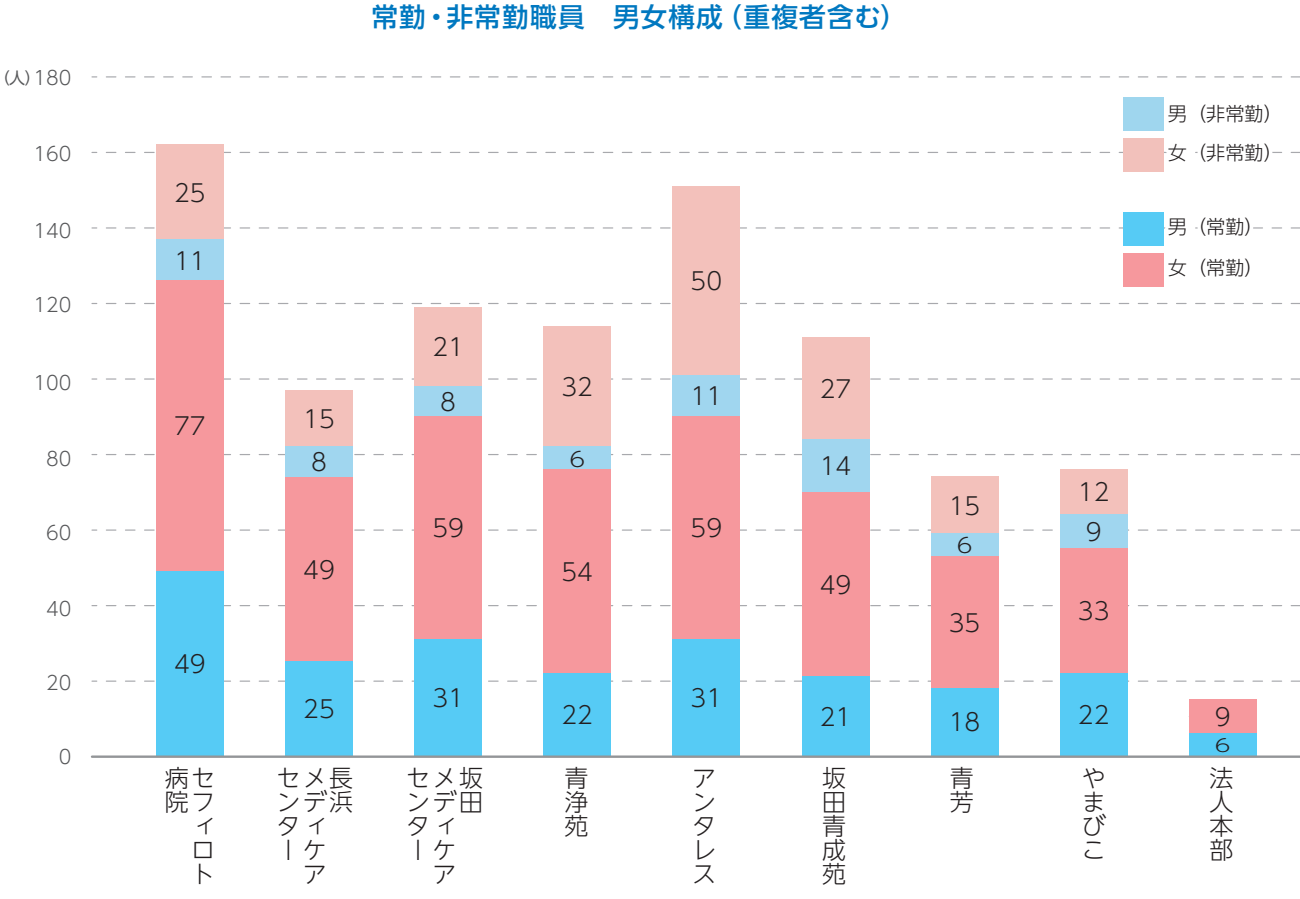
組織図

常勤・非常勤別職員状況表(令和5年(2023年) 4月1日)



(単位:人)

施設別		セフィロト病院	長浜メディケアセンター	坂田メディケアセンター	青浄苑	アンタレス	坂田青成苑	青 芳	やまびこ	法人本部	うち重複者	合 計
常勤	男	49	25	31	22	31	21	18	22	6	1	224
	女	77	49	59	54	59	49	35	33	9	0	424
	常勤 計	126	74	90	76	90	70	53	55	15	1	648
非常勤	パート 男	11	8	8	6	10	11	5	7	0	1	65
	パート 女	25	15	21	30	49	27	14	12	0	2	191
	パート 計	36	23	29	36	59	38	19	19	0	3	256
	嘱託 男	0	0	0	0	1	3	1	2	0	3	4
	嘱託 女	0	0	0	2	1	0	1	0	0	4	0
	嘱託 計	0	0	0	2	2	3	2	2	0	7	4
全体	非常勤 計	36	23	29	38	61	41	21	21	0	10	260
	男	60	33	39	28	42	35	24	31	6	5	293
	女	102	64	80	86	109	76	50	45	9	6	615
合計		162	97	119	114	151	111	74	76	15	11	908



職種別職員状況表(令和5年(2023年) 4月1日)

(単位：人)

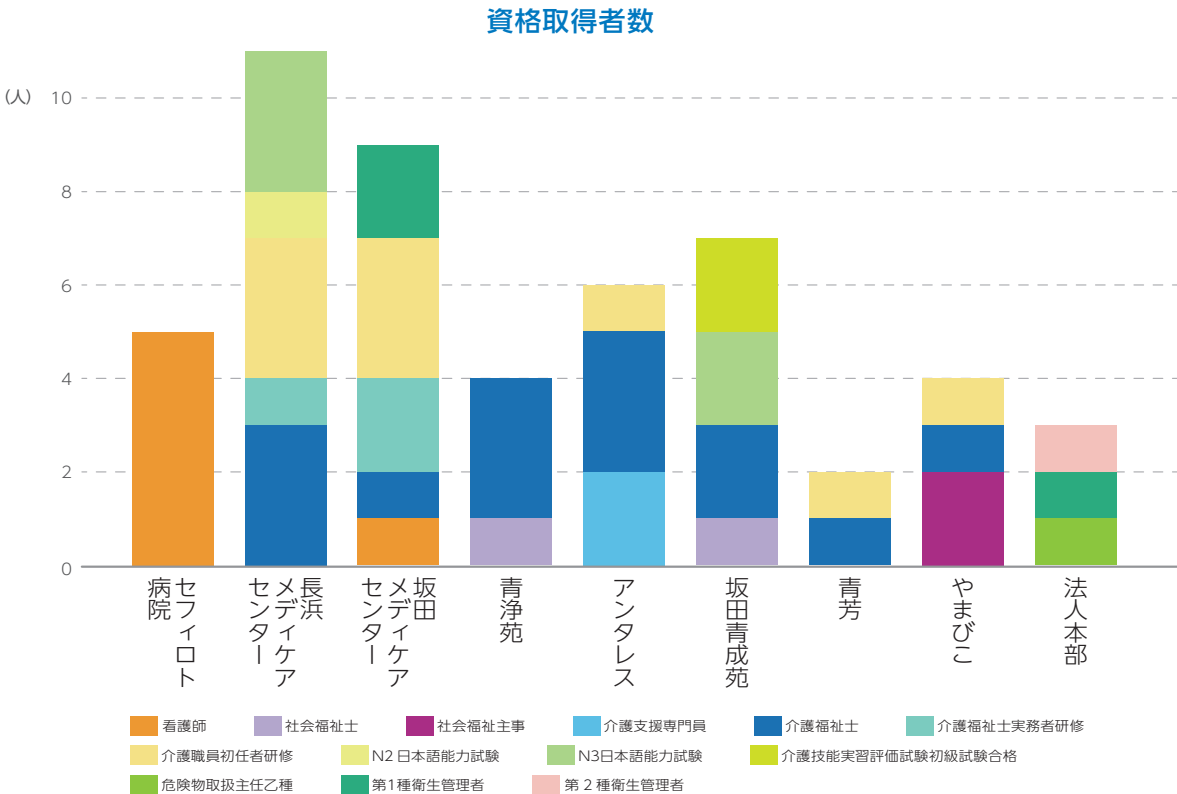
職種	区分	セフィロト 病院	長浜 メディケア センター	坂田 メディケア センター	青浄苑	アンタレス	坂田 青成苑	青芳	やまびこ	法人本部	合 計
医師	常 勤	10	2	2	0	0	0	0	0	0	14
	非常勤	5	0	1	(2) 0	(2) 0	(1) 2	(2) 0	2	0	10
	合 計	15	2	3	0	0	2	0	2	0	24
薬剤師	常 勤	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	非常勤	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3
	合 計	4	2	1	0	0	0	0	0	0	7
診療放射線技師・ 臨床検査技師・ 公認心理師	常 勤	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	非常勤	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	合 計	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
保健師・看護師・ 准看護師	常 勤	73	10	10	8	11	9	5	6	0	132
	非常勤	17	4	6	4	13	5	5	1	0	55
	合 計	90	14	16	12	24	14	10	7	0	187
理学療法士・作業療法士・ 言語聴覚士・機能訓練指導員・ 歯科衛生士	常 勤	4	10	9	1	4	1	1	2	0	32
	非常勤	0	2	4	2	1	3	1	0	0	13
	合 計	4	12	13	3	5	4	2	2	0	45
介護支援専門員	常 勤	0	3	3	7	6	6	4	4	0	33
	非常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	0	3	3	7	6	6	4	4	0	33
ケースワーカー・ 相談員・社会福祉士	常 勤	3	4	6	4	3	3	3	2	0	28
	非常勤	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	合 計	3	4	6	4	3	4	3	2	0	29
管理栄養士	常 勤	2	2	3	1	1	1	1	1	0	12
	非常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	2	2	3	1	1	1	1	1	0	12
事務員	常 勤	11	4	4	7	6	6	4	5	13	60
	非常勤	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	合 計	13	4	5	7	6	6	4	5	13	63
介護職員・訪問介護職員	常 勤	0	39	53	48	58	41	35	35	0	309
	非常勤	0	4	9	22	30	17	8	6	0	96
	合 計	0	43	62	70	88	58	43	41	0	405
	常 勤	0	32	45	44	49	37	29	30	0	266
	非常勤	0	3	5	14	17	10	3	5	0	57
	合 計	0	35	50	58	66	47	32	35	0	323
	常 勤	0	0	1	3	3	1	1	3	0	12
	非常勤	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3
	合 計	0	0	1	4	4	1	2	3	0	15
	常 勤	0	3	4	0	3	2	3	1	0	16
	非常勤	0	0	4	6	9	4	4	1	0	28
	合 計	0	3	8	6	12	6	7	2	0	44
薬剤師アシスタント	常 勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常勤	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合 計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
作業療法士アシスタント	常 勤	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	非常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
看護アシスタント・ フロアアシスタント	常 勤	16	0	0	0	1	3	0	0	0	20
	非常勤	4	4	0	1	3	3	0	2	0	17
	合 計	20	4	0	1	4	6	0	2	0	37
環境整備員・世話人・ 運転手・当直員	常 勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常勤	3	7	6	7	12	9	5	10	0	59
	合 計	3	7	6	7	12	9	5	10	0	59
合 計	常 勤	127	74	90	76	90	70	53	55	13	648
	非常勤	34	23	28	36	59	40	19	21	0	260
	合 計	161	97	118	112	149	110	72	76	13	908

※1 兼務者は主となる所属・職種で計上しています。 ※2 () 内は兼務者の配置医師の人数です。

令和5年度 資格取得者数

(単位：人)

	セフィロト 病院	長浜 メディケア センター	坂田 メディケア センター	青浄苑	アンタレス	坂田 青成苑	青芳	やまびこ	法人本部	合 計
看護師	5	0	1	0	0	0	0	0	0	6
うち新卒	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5
准看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち新卒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理学療法士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
作業療法士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
言語聴覚士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神保健福祉士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公認心理師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉士	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
社会福祉主事	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
主任介護支援専門員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
介護福祉士	0	3	1	3	3	2	1	1	0	14
うち新卒	0	1	0	1	1	1	0	0	0	4
介護福祉士実務者研修	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3
介護職員初任者研修	0	3	3	0	1	0	1	1	0	9
N2日本語能力試験	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
N3日本語能力試験	0	3	0	0	0	2	0	0	0	5
N4J.TEST 実用日本語検定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護技能実習評価試験初級試験合格	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
介護技能評価試験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護日本語評価試験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
危険物取扱主任乙種	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
第1種衛生管理者	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3
第2種衛生管理者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合 計	5	11	9	4	6	7	2	4	3	51



III

第3期中期経営計画

5つの柱 <年頭所感・運営方針>

- I. 医療・介護サービス向上の取組
- II. 地域貢献活動の取組
- III. 人材の確保・育成の取組
- IV. 組織強化の取組
- V. 経営基盤充実の取組

7つの重要施策

- ①患者・利用者の満足度の向上
- ②医療・介護の質の向上と安全・安心のサービスの提供
 - 医療・介護事故の防止に努め、安全・安心のサービス提供に努める。
- ③医療・介護・福祉事業の推進
 - 新たな社会福祉事業のサービスの提供に努める。
- ④人材の確保と育成
 - 医師・薬剤師・看護師・メディカルスタッフ・介護職員等の確保と教育研修等の一層の充実を図り、法人の将来を担う人材の育成に努める。
- ⑤健全経営の推進充実強化
 - 青祥会ブランドづくり、病院・施設の体制強化、全職員による稼働率の向上や業務改善等による経費削減の取り組みを行い、法人全体の収支の健全な確保に努める。
- ⑥地域貢献・社会貢献事業
 - 地域や住民ニーズを把握し地域福祉・社会福祉の発展に貢献する。
- ⑦職員満足度の向上

健全経営の推進

- ◆青祥会の理念の実践と青祥会ケアシステムの構築によるブランドづくり
- ◆サービス活動収支比率 令和3年度～5年度：3%以上を目指す
- ◆ワークライフバランスのとれた働きやすい職場環境づくり
- ◆新型コロナウイルス感染症対策の推進
- ◆災害「台風・豪雨災害等」対策の推進

I. 医療・介護サービス向上の取組

①患者・利用者の満足度の向上

目 標	課 題	具 体 策
患者・利用者本位のサービスの提供	患者・利用者尊重の医療・介護	患者・利用者の人権尊重と身体拘束・虐待防止対策の取組
	受入先の確保	患者の退院促進の取組強化
	地域医療の促進	地域医療向上のための病診連携・病々連携の取組強化
サービスの質の向上	職員の意識の向上	基本的な人権（差別等）教育の実施
	医療・介護サービスの質の向上	自己評価の実施と結果分析による課題解決の実施
		精神科救急医療システム体制の継続実施
		看護・介護サービスの質の向上
		認知症疾患医療センター・認知症治療病棟の円滑な運営と認知症ケアシステムの構築
		地域包括ケアシステムを各地域に浸透させ身近なサービスを育てていく取り組みの実施
		法人内通所事業所における送迎範囲の整合性を図り、支援対象地域を明確化

②医療・介護の質の向上と安全・安心のサービスの提供

目 標	課 題	具 体 策
安全管理・リスクマネジメント	感染症・食中毒の教育研修の徹底	新型コロナ感染防止対策の継続実施および感染発生における事業継続対策の実施
		感染症の蔓延防止・食中毒の防止対策徹底
	医療・介護事故の教育研修の徹底	医療・介護事故防止対策の徹底
	医療・介護事故の防止	災害に対する個別の具体的計画の整備と実効性のある訓練の実施
	安全運転の教育研修の徹底	医療・介護事故への迅速、適正な対応
		交通事故（送迎・通勤等）撲滅の推進

③医療・介護・福祉事業の推進

目 標	課 題	具 体 策
新たな事業の推進	新たなニーズに対応するサービス事業の推進	新たな社会福祉事業としての「和田の森」の構想策定

II. 地域貢献活動の取組

⑥地域貢献・社会貢献事業

目 標	課 題	具 体 策
地域との交流と連携	地域と協働化した事業推進	病院、各施設単位で地域貢献活動の立案・実施
		看護・介護の実習生や福祉体験の積極的な受入れ
地域における公益的な取組	研修の効果的な運営	各研修会（初任者・実務者研修等）の一般公開での開催
	事業の継続	病院での無料低額診療事業の継続実施
	地域と協働	青祥会創立40周年記念事業の実施

Ⅲ. 人材の確保・育成の取組

④人材の確保と育成

目 標	課 題	具 体 策
人材の確保・育成	計画的な研修体制の確立と人材育成	専門職員のための研修会等の企画と実施
	計画的な採用計画の確立	労働力人口不足の影響に伴う抜本的な人材確保（含外国人）対策の取組 部会内の指導体制を整え再就職セミナーの開催、フォローアップ研修の充実化
人事制度の充実	効率・効果的で活性化に繋がる人事制度の確立による職員の育成	人事諸制度の検証と見直し、職員への周知徹底と適正な運用の推進

⑦職員満足度の向上

目 標	課 題	具 体 策
働きやすい 職場環境づくり	相談窓口の設置等体制づくり	職員の心身の健康管理、メンタルヘルス対策の実施及びストレスチェック制度の実施
	休暇の取得しやすい仕組みづくり	就労時間の管理と有給休暇取得の促進
	柔軟な雇用形態	正職員と非常勤職員の均衡・均等待遇の実現

Ⅳ. 組織強化の取組

⑤健全経営の推進充実強化

目 標	課 題	具 体 策
業務の標準化・効率化	業務の改善	時間外労働の削減と生産性向上に向けた業務改善
		ちょうじゅシステムの記録と請求事務の連動化の推進
		看護介護記録、請求事務等電子化の適切な運用
		電子化（デジタル・オンライン化）による事務の効率化の推進
本部機能の充実	指示命令系統の確立	法人統制、内部監査体制の充実強化の取組
病院・施設・事業所の 体制強化	各制度改正への対応	介護保険制度改正への迅速な対応（監査指導事項・加算算定要件・運営規程等の見直し）
	事業の連携	法人内事業所への紹介率の向上
		在宅ケアシステムの具体的フロー作成と実践

Ⅴ. 経営基盤充実の取組

⑤健全経営の推進充実強化

目 標	課 題	具 体 策
業務の効率化	稼働率の向上による収益確保の確立	サービス活動収支比率：令和3年度以降3%以上の確保
	資金の有効利用	各種補助金の活用 の推進
		新型コロナ感染防止対策に係る必要物品の計画的な購入と補助金の有効活用
施設整備計画	施設毎の計画的な改修が必要	やまびこの大規模改修：令和4年度
		坂田メディケアセンターの大規模改修：令和3年度
		青浄苑の大規模改修：令和4年度

Ⅳ
事業報告

社会福祉法人 青祥会

昭和57年3月8日設立



2019(令和元)年12月に中国の武漢で新型コロナウイルスが確認されてから4年が経過した。国内においては、2023(令和5)年5月8日に感染症法上の位置付けが「2類相当」から「5類」に移行されたが、医療福祉施設に対しては、同年9月末まで感染防止対策の継続が指導された。

青祥会は、この国の指導の遵守、そして、感染拡大阻止のため、入院・入所制限、短期入所の一時停止、デイサービスの利用制限および利用停止などの対策を講じた。

青祥会における新型コロナウイルス感染症の陽性者数

- 令和2年度:2人(患者・利用者1人、職員1人)
- 令和3年度:93人(患者・利用者58人、職員35人)
- 令和4年度:597人(患者・利用者340人、職員257人)
- 令和5年度:425人(患者・利用者201人、職員224人)

青祥会のクラスター発生施設(全8施設)

- 令和2年度:0施設
- 令和3年度:1施設
- 令和4年度:7施設
- 令和5年度:8施設

また、令和5年度は全国的に転職が活発化し、青祥会においても常勤職員離職率9.41%(令和4年度6.77%)、非常勤離職率13.46%(令和4年度14.80%)、合計10.57%(令和4年度9.17%)となり、令和6年4月1日現在の職員数は882名と900名を割り込んだ。人材確保と人材の定着化の重要性を再認識し、喫緊の最重要課題として確認する年度となった。

令和5年度は、令和4年度に引き続きこのような厳しい状況下にあったが、各施設の取り組みにより、下記の通り決算を終えることができた。

勘定科目・経営指標	令和5年度実績	令和4年度対比
サービス活動収益	5,597百万円	+11百万円
サービス活動増減差額 (営業利益)	222百万円	+17百万円
サービス活動増減差額率 (営業利益率)	3.98%	+0.31%
経常増減差額 (経常利益)	303百万円	+107百万円
経常増減差額率 (経常利益率)	5.43%	+1.92%
当期活動増減差額 (最終利益)	300百万円	+90百万円
当期活動増減差額率 (最終利益率)	5.37%	+1.60%

中期経営計画の営業利益率目標3%以上は達成したが、令和5年度事業計画の営業利益率目標5%以上を達成することはできなかった。

セフィロト病院

平成24年4月1日開院



令和5年青祥会運営方針に基づき以下の5つを基本方針として掲げ、事業活動に反映させた。今年度も昨年同様、取り組みのキーワードを「改善による全体最適化」とし、日々の業務に取り組んだ。

1) 医療・介護サービス向上の取組

法人内施設を含む介護事業所等との連携強化を図り、当院の強みである「認知症」・「うつ病」を中心に質の高い医療を提供できる病院を目指し運営を行った。また、新型コロナウイルス感染防止対策の強化継続、医療・介護の安全と事故防止等リスクマネジメントの徹底に努めた。更には電子カルテ導入による業務効率化により、より良い医療サービスの提供ができた。そして令和6年度に受審予定の病院機能評価の準備の年としてサービス向上の為の基盤強化に取り組んだ。

2) 地域貢献活動の取組

『認知症になっても、安心して暮らせる湖北地域』を目指し、認知症疾患医療センターを中心に認知症に関する専門的な診断や治療、電話相談、支援機関との連携、市民対象の公開講座や研修会などの地域ニーズに沿った貢献活動を積極的に実施した。

3) 人材の確保・育成の取組

人材の計画的な採用と育成・定着・確保を図り、サービス提供の安定した事業継続に努めた。また、新たな人事考課や勤務制度等の改善を図り円滑な業務の推進に努めた。

4) 組織強化の取組

グループウェアデスクネットネオの電子会議室を活用し各部署間で横断的に意見交換を行うなど院内コミュニケーション強化を図った。また電子カルテ導入による請求事務連動化など業務効率化を推し進め、働きやすい魅力ある病院となるよう組織づくりに努めた。

5) 経営基盤拡充の取組

プロジェクトチームによる収益確保に向けた新事業の検討・実施は具体的に進まなかったが、勤怠管理システムであるクロノスの導入により、これまで独自に行ってきた給与計算業務を簡略化させ業務改善を図るべく基盤づくりができた。更に、人事制度改革に着手することができた。また、新型コロナウイルス感染症関連の補助金活用により、サービス活動収支の黒字確保ができた。

介護老人保健施設 長浜メディケアセンター

平成5年9月7日開設



介護老人保健施設 坂田メディケアセンター

平成11年12月1日開設



令和5年度の第4四半期に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したが、超強化型介護老人保健施設として算定要件の維持と稼働率の確保に努め、収益を確保することができた。一方、LIFEのフィードバックデータは十分に還元されておらず、科学的根拠に基づいたケアへの取り組みは不十分であった。

新型コロナウイルス感染症に注意しながら、在宅復帰に必要なADL獲得に向けたリハビリ、個別ケア、在宅訪問なども徐々に再開し、退所後も継続的に適切な支援やアドバイスを行うことができるようになった。また、新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月から感染症法の分類が「2類相当」から「5類」に移行されたことを受けて、利用者と家族の直接面会を再開した。

1) 医療・介護サービス向上の取組

- ①青祥会ケアシステムにおける入所、短期、通所リハビリテーションの役割を担い、退所後も継続的なアドバイスやフォローを続け住み慣れた地域での在宅生活に継続的な自立支援をサポートした。
- ②新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したが、感染予防対策を実施し工夫しながらサービスを提供することができた。

2) 地域貢献活動の取組

- ①「出前講座」にリハビリスタッフ、管理栄養士、看護師など専門スタッフを派遣し、地域住民の健康や福祉の啓蒙活動を9回実施した。また、介護予防を目的とした「健康フェア」を1回開催した。
- ②コロナ禍の中でも実習生を積極的に受入れたが、感染対策が優先となり現場での研修の機会が少なくなった。

3) 人材の確保・育成の取組

- ①次世代を担う役席者の育成を最重点項目と考え、自ら考え行動できる役席者の育成を目指した自主勉強会等の開催ができなかった。
- ②ICT化の推進や業務改善の見直しで時間外を無くし、働きやすい職場作り離職防止に取り組んだ。
- ③滋賀県が主催する「介護のイメージアップ事業」への協力、また、技能実習生等を積極的に受け入れた。
- ④eラーニングによる専門研修を自主勉強という形で実施し、85名中71名の職員(非常勤も含む)が受講した。

4) 組織強化の取組

- ①法人内の病院や事業所と連携し、青祥会ケアシステムにつなげた。
- ②ICT器機の「CareWizハナスト記録」や「インカム」など効果が高いと判断したものは、法人内で情報の共有化を図り業務改善と効率化につなげた。

5) 経営基盤充実の取組

- ①新型コロナウイルス感染症などの感染症に対し、感染対策とリスクマネジメントに取り組んだが、第4四半期に集団感染を発生させてしまい、一時的に稼働率や在宅復帰率等が低下した。
- ②新入所者の一定期間の個室使用など感染対策を重視したベッドコントロールを行いながらではあったが、超強化型介護老人保健施設としての算定要件は維持できた。
- ③水道光熱費をはじめあらゆる物の物価高騰により経費の増加が想定される中、節約を意識した経費節減に取り組んだ。また、老朽化した設備の交換や修理を一部実施した。
- ④人件費比率目標の65%以下はクリアしたが、医師、薬剤師、支援相談員など特殊な職種で十分な人員が配置できず職員の負担が増加した。
- ⑤自然災害や感染症等あらゆる災害に対して対応できるようにマニュアルは作成したが、実際の訓練等はできなかった。

令和5年度は、前年度末に大規模導入したICT・見守り機器(ハナスト、眠りSCAN、眠りSCANeye、スマートフォン等)の本格運用を行った。新たにICT導入・運用プロジェクトチームを結成し、職員のITリテラシーの向上や各機器の習熟度を高めることで業務効率を一層加速させ、職員の生産性向上を目指した。機器導入後の評価では、夜勤帯における職員の夜間巡回頻度の減少や身体的・精神的負担の軽減及び記録に要する時間の減少等、一定の効果を認めた。次年度も継続しICT・見守り機器の有効活用による業務の効率化を推進し生産性向上を目指していく。

次に、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策については、職員・利用者の感染は何度か発生したものの大規模な集団感染は発生することなく経過できた。今後も感染対策を実施しつつ感染状況を見極めながら、利用者と家族が安心して過ごせる施設づくりに努めていく。

経営基盤充実の取り組みとして、超強化型介護老人保健施設の運営を確固たるものとするため、新たに言語聴覚士の配置や訪問指導実施件数を増加させたことで在宅復帰・在宅療養支援等の指標値を常時75以上とし、超強化型介護老人保健施設として安定的な運営に努めた。

通所リハビリテーションは稼働率の低迷による収益減となったが、本体部門において超強化型介護老人保健施設の算定を継続できたことが収益に貢献し、前年度を上回る収益を確保することにつながった。

1) 医療・介護サービス向上の取組

感染症対策委員会を中心に、感染防止対策、蔓延防止の強化に努めた。

LIFEを用いた厚生労働省へのデータ提出を行い、フィードバックデータの有効活用の方法を検討し、科学的根拠に基づいたサービス提供に努めた。

2) 地域貢献活動の取組

地域貢献活動については感染予防策を講じた上で、看護学校1校、管理栄養士実習1校及び介護職員初任者研修の実習を受け入れた。

3) 人材の確保・育成の取組

時間管理については、各セクションで業務改善、業務の効率化に取り組むと共に、時間外労働の事前申請の定着化、出退勤乖離時間の注意喚起の実施等、時間管理の徹底により、ワークライフバランスの取れた働き方の推進に努めた。

4) 組織強化の取組

眠りSCAN、眠りSCANeye、ハナスト等、ICT機器の導入を行い、一層の業務効率化を推進し、家庭と仕事の両立した働きやすい職場環境づくりに努めた。

5) 経営基盤充実の取組

各加算について漏れなく適正に算定すると共に、超強化型介護老人保健施設の算定を維持できた。また、事業費、事務費や日用品等の中で無駄な支出を省き、経費削減に努めたことで、拠点施設の営業利益率9.07%を確保することができた。

特別養護老人ホーム 青浄苑

昭和57年11月25日開設



特別養護老人ホーム アンタレス

平成20年4月1日開設



令和5年度運営方針並びに第3期中期経営計画を受け、5つの重点項目を中心に施設運営、事業運営に取り組んだ。令和3年度から開始された第3期中期経営計画の最終年度であり、仕上げる年として計画に基づき掲げている活動計画・行動計画の推進に取り組んだ。

1) 医療・介護サービス向上の取組

- ①新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するとともに、施設内の環境整備を実施した。感染防止対策に欠かせない衛生用品、備品類の在庫管理を徹底し、必要物品の確保に努めた。また、青浄苑で取り組む感染防止対策等について、利用者・家族・関係機関等へ周知し理解を求めるよう努めた。
- ②多職種連携のもと、科学的根拠に基づいたケアを推進し、利用者の安心・安全な生活を守るよう努めた。
- ③eラーニング研修、施設内研修、法人の研修を通じて専門職として知識の向上に努めた。
- ④事業継続計画(BCP)を策定し、災害発生時、感染症発生時の事業継続体制を整えた。

2) 地域貢献活動の取組

- ①地域における社会資源として、施設利用や在宅生活の継続ができるサービスを提供するよう、家族や関係機関と連携し取り組んだ。
- ②施設内の新型コロナウイルス感染症の感染状況により、実習期間や日程の変更を行いながら実習生の受け入れを行った。
- ③長浜西部福祉ステーションにおいて「健康得々広場」、「うたごえ広場」等、外出支援事業・自主事業を通じ、地域参加者の親睦を図った。

3) 人材の確保・育成の取組

- ①コロナ禍においても、職員間のコミュニケーションを積極的に図り、多職種での情報の共有が円滑に行われるよう体制を整えた。

- ②施設内研修やeラーニング研修を受講することで、学びやケアの再認識に繋がった。外部研修については、オンラインでの参加が中心となったが十分に参加できなかった。

4) 組織強化の取組

- ①ケアカルテやデスクネットネオ等の利用を促進し、情報共有を深めることにより業務の効率化を図った。
- ②報告・連絡・相談の徹底、担当業務の共有化、優先順位に基づく業務遂行、多職種連携の強化等により、業務の効率化を図るとともに、時間管理を徹底した。

5) 経営基盤充実の取組

- ①多職種連携により稼働率の向上に努めた。前年度末に新型コロナウイルス感染症による影響が特に大きかった入所、短期入所については、共に稼働率はある程度回復した。引き続き満床に向けて取り組んでいく。令和5年度決算については、平成29年度以降7年連続の黒字を確保することができた。
- ②業務の優先順位を意識した時間管理を徹底し、業務内容の見直し、改善、効率化の推進に取り組んだ。
- ③常に費用対効果を意識し、無駄な支出の削減に努めた。
- ④施設老朽化に伴い、令和5年度もエアコンを始めとした設備の故障が頻発した。業者との連絡を密に取り、適宜適切な対応を実施しサービス提供に係る影響を最小に抑えた。次年度以降も同様の懸念がある。
- ⑤事業継続計画(BCP)を策定し、災害発生時、感染症発生時の事業継続体制を整えた。

令和5年度運営方針に基づき以下の重点項目の実践に努めたが、新型コロナウイルス感染症の予防等をなお優先させたため、一部計画を縮小、変更し対応した。

1) 医療・介護サービス向上の取組

- ①新型コロナウイルス感染症については、5類感染症への変更に伴い、職員の行動制限や休務基準を緩和しながらも高齢者施設の職員であるという認識の下、引き続き標準予防の徹底と体調管理を継続した。
- ②そのような状況下の中、不本意にも令和6年1月および3月に新型コロナウイルス感染症が蔓延する状態となったが、過去の経験と定期的なシミュレーションを生かした迅速な感染対応をすることができた。
- ③転倒・転落による骨折や誤薬等の重大事故について、入所部門および在宅部門の定例会議で報告すると共に、特に再発防止のための対策が適正に実施されているかという視点でその現状を検討した。
- ④利用者の所有備品等の保管状況や職員の接遇に関する不適切対応については、発生都度「不適切ケア処理簿」に記録、管理職・施設長への回付を行い、管理職等による迅速な対応を実施したことにより、大きな苦情案件の発生を防止できた。

2) 地域貢献活動の取組

- ①ケアプランセンターと在宅部門間の情報の共有と連携を強化し、職員個々が「アンタレスコーディネーター」を常に意識することにより、地域の多様なニーズに対して切れ目のないサービスを提供することに注力した。
- ②感染症予防策を講じた上で看護師、介護士等を目指す実習生の実務研修や小中高校生の職場体験等を前年度に増して受け入れると共に、実習生等に可能な限り良い職場環境や印象を与えられるよう配慮に努めた。
- ③例年通り行政機関や地域の諸団体等からの要請に応える形で、各種の出前講座に対応できる体制を整えていたが、施設独自の実施には至らなかった。

3) 人材の確保・育成の取組

- ①前年度に引き続き職員の個人目標を設定し目標達成に向けた取り組みに対して、上司による個別面談によ

- る中間評価と最終評価を実施する中で、特にプラスのフィードバックにより職員個々のモチベーションの向上に努めた。
- ②「働き続けられる職場環境の整備」を行い、職員が人間関係や時間外労働、職場環境等を理由とする離職の抑制に注力した。
- ③外部から新規の人材確保を進めると共に、非常勤から常勤登用の働きかけを行い特に夜勤や呼出し対応ができる職員の確保に努めた。
- ④訪問系サービスにおける人材確保のため次世代を支える担い手(サービス提供責任者、ヘルパー、訪問看護師等)育成のための具体的指導を実施した。

4) 組織強化の取組

- ①入所部門と在宅部門の連携会議において、双方の情報を定期的に伝達、共有することにより「オールアンタレス」としての意識づけを強化した。
- ②自然災害や感染症発生時における事業継続計画(BCP)に基づく研修およびシミュレーションの実施には至らなかったため、次年度の課題とした。

5) 経営基盤充実の取組

- ①現在稼働中の介護ロボット(眠りスキャン、見守りセンサーカメラ)の導入効果の評価やヒヤリハット事例を抽出すると共に、職員の業務負担軽減や機器の定期点検等も含め、「業務改善委員会」での検討を実施した。
- ②各部門における月次の利用者数、稼働率等の実績や経費の削減について、施設内会議等で報告、協議を実施することにより、収支状況に対する職員の関心度が高まるよう努めた。
- ③令和5年度拠点区分でのサービス活動収益832百万円(前年比△4百万円)、サービス活動増減差額45百万円(前年比△9百万円)、営業利益率5.4%(前年度1.1%)となった。

特別養護老人ホーム 坂田青成苑



平成4年4月21日開設

特別養護老人ホーム 青 芳



平成10年10月1日開設

今年度、新型コロナウイルス感染症が5類となったことを受け、数年来実施できていなかった各行事を再開した。新型コロナウイルス感染症発生により多大な影響を受けた令和4年度と比較し、令和5年度は利用者、職員ともに感染者は減少した。これにより、本来提供されるべき水準のサービスの質及び利用者数の回復を図ることができた。

人材確保の観点から、令和4年度に「滋賀県介護施設等大規模修繕時の介護ロボット・ICT導入支援補助金」1,614万円を利用して導入したロボット、IT機器の本格稼働を行ったことにより、職員の負担軽減と業務効率化に取り組んだ。引き続き実績データに基づいた導入効果の検証と検証結果の活用により、時間外勤務の減少等、具体的に結果を出すための取り組みを行う。

各部門の稼働率については、新型コロナウイルス感染症対策の強化等の効果により、前年から回復。運営方針にも掲げられているサービス活動収支比率の目標数値である3%を上回る、3.43%を確保することができた。

1) 介護サービス向上

- ①新型コロナウイルス感染症への対策を徹底しつつ、中止や縮小している行事の再開を積極的に行った。また、施設内感染の減少により本来のサービスの質の水準を一部ではあるが取り戻すことができ、より多くの皆様に介護サービスを提供できたことで、地域資源としての役割を果たすことができた。

2) 地域貢献活動

- ①地元企業からの招待による花見や地元小学生との交流に加え、一部のボランティアを受け入れる等、感染対応に配慮しつつ最大限の地域貢献を果たした。

3) 人材確保及び育成

- ①ハローワークへの求人掲載に加え、福祉の就職フェア等へ積極的に参加したことにより、少人数ではあるが自力で職員を確保することができた。また、補助金を利用してITロボット機器を導入したことにより、人材の定着化に繋がる取り組みを行った。
- ②人材の育成については、OJTのほか、eラーニングの活用、Web研修への参加推進を行った。また、外国人技能実習生の日本語と知識・技能の習得強化に努めた。

4) 組織強化

- ①CareWizハナストを導入し、記録と連携を効率的に行えるようになったことで、施設間の情報共有、業務標準化を図ることができた。
- ②職員個々のワークライフバランスの実現と業務改善

による生産性向上のため、衛生委員会にて勤怠管理システムデータを活用し時間管理への意識改革を推進した。

5) 経営基盤充実

- ①収益力強化のため、入所及び短期入所利用者を迅速に受け入れるための体制整備と施設内感染防止対策強化及び通所部門相談員の交渉力及び営業力強化について取り組んだ結果、稼働率が向上した。
- ②研究発表大会においてケアプランセンターが行った、地域貢献としての取り扱い件数増加及び法人への貢献としての法人内事業所への紹介件数増加に取り組んだことにより一定の成果が見られた。
- ③公用車等、既存設備の保有数等を見直すことにより支出の削減を図った。また、ICT機器の導入に補助金を活用することにより自己資金捻出の圧縮を図った。
- ④施設入所サービス・短期入所サービスの稼働率は、入所96.7%、短期入所95.2%と前年比より増加。これによりサービス活動増減差額は13,675千円の利益計上となった。通所部門については、令和5年7月末にて坂田デイサービスセンターを休止する一方、山東デイサービスセンターの定員数を10名増員し40名にすることで、収益力の増強を図った結果、稼働率64.0%を確保することができた。結果、山東デイサービスセンターのサービス活動増減差額は11,204千円の利益計上となり、拠点全体で21,211千円の利益を計上することができた。

前年度の終盤に発生した新型コロナウイルス感染症の施設内まん延の影響が、当年度初めにも尾を引き稼働率の低迷が続くこととなった。併せて施設開設25年を迎えた中、設備の修繕、更新が相次ぎ、収益低迷に拍車をかける形となった。

1) 医療・介護サービス向上の取組

- ①従来に引き続き、職種間の連携・協働体制の下、感染症予防・介護事故防止・不適切ケア防止に取り組んだ。
- ②新型コロナウイルス感染症については、年明けに施設内で同時に複数名の利用者、職員の感染が発生したが、比較的短期間で収束できた。今後も過去の感染症予防対策の経験を活かし、利用者が安全で安心できるサービスの提供を推進する。

2) 地域貢献活動の取組

- ①出前講座等の地域との交流は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催できなかった。
- ②実習生については、長浜北星高校3年生2名、1年生2名と、県立看護専門学校1年生5名の受入れを行い、医療・福祉の人材の育成に協力できた。

3) 人材の確保・育成の取組

- ①オンライン研修中心であった外部研修の受講については、集合研修にも参加し、職員の積極的なスキルアップにつながった。
- ②施設内職員研修を輪番による職員が講師となって毎月行うことを今年度も継続し、講師にとっても研修の効果が得られた。
- ③計画的な有給休暇の取得推進等により、働き甲斐のある職場を目指したとともに、離職の防止に努めた。

4) 組織強化の取組

- ①介護職員の夜勤体制を3交代制から2交代制に移行し、業務の効率化を図り、時間外勤務の縮減にもつなげた。
- ②ホーム利用者定員4名をショートステイへ転用し、加算体制の見直しを図った。
- ③月1回リーダー会議での研修の実施により、施設運営上の任務や部下指導、育成について知識と意識を高め、リーダー力の向上を図った。

5) 経営基盤充実の取組

- ①稼働率の低迷と経費の増加により収益の改善には至らなかった。
- ②各部署それぞれの役割における目標を再認識し、施設が地域における社会資源としての存在力を高め、新規利用や継続利用の促進を図って収益向上に向けた取り組みを徹底していく必要がある。

特別養護老人ホーム やまびこ

平成11年12月1日開設



V 委員会・部会活動

和顔愛語の基本理念に沿ったサービスの提供に努め、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も引き続き感染症対策を徹底し、地域における介護サービスを継続していくため、法人の掲げる5つの重点項目に基づいて事業運営に取り組んだ。

1) 医療・介護サービス向上の取組

- ①新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策については、最重要課題として引き続き徹底し「ご利用者の安全と命を守る」ということを職員全員に周知し、一人一人が確実に感染拡大防止対策を実行した。
- ②令和3年度介護報酬改定により運営基準で制定が義務化された業務継続計画(BCP)を作成した。

2) 地域貢献活動の取組

- ①法人本部と協力し、愛知高校にて4月に出前講座を開催した。
- ②将来の福祉人材の育成のため、びわこ学院大学から2名の施設実習生の受け入れを行った。
- ③地域との連携を強化するため、自治体の福祉関連部署や地域包括支援センターとの情報交換を継続して行うことができた。

3) 人材の確保・育成の取組

- ①職員が自主的に行動できる職場環境をつくることを目的に、施設内委員会を活発化させることを検討したが、新型コロナウイルス感染症対策もあり委員会の積極的な活動には至らなかった。
- ②職員の離職防止に努めたが9名(常勤6名、非常勤3名)の退職者があった。来年度も職員の不安の早期把握と家庭との両立が可能な職場づくりを目指す。

4) 組織強化の取組

- ①大規模改修が延期となっているが、水回りや厨房設備・車いすなどの老朽化を考慮し緊急性の高いものは大規模改修を待たず都度更新を行った。
- ②見守り支援機器等の介護ロボットを導入し、職員の業務負担を減らす取組は必須と考え、令和5年度介護ロボット導入補助金を利用し「眠りスキャン」10台を導入した。

5) 経営基盤充実の取組

- ①毎月の収益状況の分析を管理職だけでなく事務員も交えて行い、職員が収益状況や稼働率を意識することで、稼働率の目標達成に向けた収益改善策の検討を行った。
- ②居宅部門の稼働率確保に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり当初の稼働率目標は達成できず収益は大きくマイナスとなった。

在宅ケアシステム推進委員会

1. 事業継続計画(BCP)に関して、災害等発生時等に法人内居宅系サービスの運営継続が困難となった場合の代替サービス等のルール作りを行う。

- ①事業継続計画(BCP)の内容に合わせて、より具体的な連携マニュアルの作成に取り掛かった。
- ②通所系サービスにおいて自然災害やインフラ障害などによって一時的に事業継続が困難となった場合の代替サービス連携については、具体的な連携方法について対象事業所間で調整を行った。
- ③特定の事業所間で受け入れ体制の申し合わせまではできているが、実績は発生しておらず、今後はシミュレーションなどの実施を検討し、より具体的な対応についても検討していく必要がある。

2. 利用者や家族の事情により緊急的にサービス利用を希望される場合の法人内サービス調整について、調整フロー作成を検討する。

- ①緊急ショートステイや緊急に通所系サービスを追加しなければならない場合などの情報を迅速に収集し、在宅ケアシステム推進委員会から各事業所担当者に調整依頼を行った。
- ②令和5年度は緊急ショートステイの調整が2件、新型コロナウイルス感染症の影響でショートステイの利用が急遽キャンセルとなった場合の通所系サービスおよび訪問介護の代替え調整が3件あった。
- ③アンタレスの居宅サービスに関連する利用者の情報は速やかに把握できるが、それ以外の利用者の情報は把握が難しい状況であり、実態が把握しきれていない。

個人情報管理委員会

1. 「個人情報管理規程」、「介護記録等の開示規程」、「個人情報保護マニュアル」の改訂

- ①個人情報保護に関する個別事案として、見守り機器を使用する場合の「説明書兼同意書」の作成について協議を行った。
- ②サイバーセキュリティに関するインシデント発生時の連絡体制図の作成を行った。
- ③「個人情報管理規程」、「介護記録等の開示規程」、「個人情報保護マニュアル」の改訂について、整備を継続する。

2. 個人情報保護に関する研修の実施

- ①各施設の年間研修計画や新人職員研修の中で様々な分野の個人情報保護に関しての研修を行った。
- ②eラーニング等の活用により、施設間で習熟度に差が出ないように検討していく。

3. ITシステム委員会との連携

- ①グループウェア desknet's NEOを活用して委員間で意見交換を行った。
- ②ITシステム委員会と連携し、サイバーセキュリティに関するインシデント発生時の連絡体制図の作成を行った。
- ③サイバー保険に加入し、サイバー攻撃による被害の発生や、個人情報が漏洩した場合に備えた。
- ④ICT機器導入に際し、適宜個人情報の漏洩等の防止対策について検討していく。

4. 各現場における個人情報の管理上での問題点の報告、検討

- ①各現場における個人情報の管理上での問題について、適宜各施設で聞き取りを実施した。
- ②各現場における個人情報の管理上での問題について、重大な問題は発生していない。
- ③個人情報の管理上のヒヤリハット等を共有できるよう検討していく。

業務改善推進委員会

人事制度の見直しなど新たな取り組みを行っている中、働き方改革を推進し、時間外労働の削減や生産性の向上を踏まえた業務改善を行うことで職員にとって働きやすい職場づくりに取り組んだ。生産性向上に向けた取り組みの必要性について共有することが出来た。

1. 業務の効率化

- ①環境整備が出来ていない、荷物チェックや衣類返却に時間がとられるなどの課題抽出に対し、各施設で情報共有を行い、業務改善に取り組んだ。
- ②現場業務を間接業務・直接業務に分けて考え、アシスタントやICT機器の活用で対応できる部分がないかを検討した。
- ③眠りスキャンについては施設間の情報交換にて使用範囲の拡大につながった。
- ④業務改善の進め方について学習できたが、施設全体への浸透が出来ていない。業務改善を進める上で多くの職員が手順など共有できるよう、勉強会やオンライン研修にて知識向上を図る必要がある。
- ⑤アシスタントやICT機器の活用に向けて、施設全体での取り組みが不十分であった。

2. 働き方改革への対応

- ①ケアワーカー部会と連携し、介護業務の日勤帯業務やシフトについて情報交換を行った。
- ②夜勤帯業務の統一化を図り、夜勤3交代施設においても2交代夜勤への変更に取り組んだ。夜勤については感染対応時を除き、全施設2交代夜勤に統一することができた。
- ③現場での感染対応が優先されることが多く、日勤帯の業務統一化や適正人数算出には至らなかった。
- ④残業時間や有休休暇の状況については毎月確認できているが、総業務時間や間接業務の割合など、細かく分析しないと業務改善に繋がらない。

看護介護記録電子化推進委員会

1. ケアカルテと各種ICT関連機器等との連携について理解を深め、記録や帳票作成に関する課題を把握し、効果的な介護DX化に向けた役割を發揮する。

- ①ケアカルテ音声入力システム「ハナスト」について全拠点施設への情報発信を行い、未導入施設の体験デモをセッティングして現場職員の理解を深めた。2週間の体験デモ期間をセッティングし、可能な限り多くの職員に記録の音声入力やインカム機能の利便性を体験してもらうことができた。
- ②体験デモにおいてiPhoneを6～8台同時に使用したが、体験デモを行った全施設において現状のWi-Fi環境では通信が不安定になることが判明したため、今後のDX化促進に先行してWi-Fi環境の整備が必須である。

2. ケアカルテの使用状況を管理・把握し、法人内での使用方法を統一する。

- ①委員会開催毎にケアカルテ使用方法の統一について案内を行い、ケアカルテ管理者によって定期的に作成状況の確認を行い、統一化に向け尽力した。
- ②日報及び月報及びケアレポートについては、概ね適切に集計されるようになった。
- ③フェイスシートについては、内容に変更が生じた時のみの更新となっており、3月毎の定期的な更新はほとんど行われていなかった。
- ④災害等発生時にケアカルテに入力されている利用者情報を活用してリストを作成することを想定している。ケアカルテの情報リストはフェイスシートの情報を利用するため、定期的な情報更新が必要であり、更新定着に向けて働きかけの方法を検討する必要がある。

3. ケアカルテを上手く活用することで業務の効率化を図ると共に、学校訪問や実習でも介護分野におけるICTの活用を伝え、人材確保に繋げる。

- ①ケアカルテを基盤としてiPadの活用や音声入力、インカム機能の活用により業務改善につながり、その効果が研究発表大会でも報告されている。また、出前講座やICT活用の事例報告などにおいて法人のDX化のアピールを行った。
- ②ケアカルテ音声入力システム「ハナスト」については介護実習生に高評価を得ていた。また、外国人技能実習生等についても音声のみで入力でき、記録への変換はAIが適切な漢字や文章へ変換してくれるため、日本語能力試験N3レベルで適切な記録が作成できていた。
- ③就職説明会や出前講座、ホームページ等、広報において積極的にDX化をアピールしていくことが重要である。

人権教育推進委員会

第3期中期経営計画の目指す「サービスの質の向上」に向けて、「職員の意識の向上」を課題として、具体的な取り組みを進めた。

1. 人権意識の向上について

- ①各施設にて人権の研修を行うにあたり、新たな取り組みとして、法人の教育研修委員会が推奨しているeラーニングの中から、「高齢者の権利擁護・虐待防止シリーズ1～3」を視聴した。その後アンケートを実施し意識調査とデータ分析を行った。
- ②研修実績について、アンケート集計により法人全体で667人が視聴を行った。回収率は87.6%であった。アンケートの感想に多くの意見が記入されており関心度の高さがうかがえた。
- ③新たな取り組みとして、法人の教育研修委員会に協力いただきeラーニングの研修を視聴することとなった。計30分程度で充実した内容であり、次年度以降も活用を検討していく。

2. 職業倫理の醸成について

- ①各施設の人権教育推進委員に対して課題となる項目の研修を行いコンプライアンスや職業倫理について学び施設にフィードバックを行った。
- ②各施設の年間研修計画や新人職員研修の中で様々な分野の人権に関しての研修が行えた。
- ③各施設での研修となり、施設ごとの習熟度に差があり、委員会で把握できず議論が難しかった。

3. 働きやすい職場づくりについて

- ①委員会開催時に、前年度のアンケート集計で関心の高かった高齢者の人権問題についての研修を行い、風通しの良い職場環境作りに向けての取り組みを行った。
- ②委員会開催時に、法人規程や外部資料・新聞での報道などを参考に今後につながる研修が行えた。
- ③各施設で抱える様々な問題がある中で、項目を絞り研修を行い好評であったが、限られた時間で議論するまでには至らず、課題解消までは発展しなかった。

教育研修委員会

1. 計画的な研修体制の確立と人材育成

- ①新入職員・中途採用者研修
 - 2日間で、セフィロト病院の新卒7名と施設の新卒8名、キャリア採用者13名、合計28名が受講した。
 - 受講後のレポートでは、「接遇」の講義に対する感想が多かった。

1日目（令和5年4月1日）		2日目（令和5年4月3日）	
1	青祥会の理念と歴史、職員心構え	1	高齢者と病気の基礎知識
2	身体拘束、虐待防止	2	介護保険について
3	介護の基本について	3	接遇
4	高齢者介護技術	4	高齢者の健康管理
		5	就業規則・個人情報保護・法令遵守

- ②階層別研修
 - 4年ぶりに集合研修を実施することができた。
 - 組織の一員としての考え方や行動力、組織のリーダーに求められるリーダーシップやマネジメント能力を説明し、職位に対する職務内容を明確に示した。演習では役職としての現状と課題を討議することにより、気づき、反省、共感等があり全体的に好反応であった。
 - 管理職については、最近発生している福祉現場での労使トラブル事例から適切な労務管理対応策を学んだ。

8月	2回	サブリーダー研修
9月	2回	リーダー研修
10月	1回	副主任研修
11月	1回	主任研修
12月	1回	係長研修

- ③専門研修
 - 令和5年9月から無料eラーニングを採用し、施設内のPCや個人のスマートフォンから自由に受講できる環境を整えた。
 - 法定研修も同じeラーニングを活用した。
 - eラーニングは『短時間』『繰り返し』『スマホでの自宅学習』『ながら』等の視聴ができ、職員から高評価だと各施設から報告があった。
 - 日常業務のOJT指導に於いて、eラーニングを活用するケースがあった。

- 管理方法（紙ベース・データ管理）は選択制にし、施設毎に受講管理を行った。
- 「接遇研修」は外部講師を迎え、集合研修・DVD研修を行った。

2. 第18回研修発表大会の開催

- 令和6年3月10日（日）9:00～12:30
長浜文化芸術会館にて開催。
- 8演題と「えにしアカデミー研究報告」を半日プログラムにて実施した。

感染症対策委員会

1. 医療・介護サービス向上の取組

- ①新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、感染発生状況を注視しながら感染対策の定期的な見直しを行う。
 - 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、法人の方針に基づき各施設で感染対応の見直しを都度行った。
- ②利用者の日々の体調管理を適切に行い、異常の早期発見とマニュアルに沿った初期対応の徹底により、感染症蔓延を防止する。
 - マニュアルに沿った初期対応の徹底を行ったが感染拡大が見られた。

2. 地域貢献活動の取組

- ①施設来訪者、在宅介護者向けに感染症対策に関する正しい情報を提供し啓蒙活動を行う。
 - 法人や各施設、事業所の広報誌やホームページに感染症対策についての掲載を行った。
- ②高齢者施設であることを念頭に置き、面会や感染症対応方法の見直しを行う。
 - 感染対策を講じ、対面面会を再開した。
 - 各施設において最新情報や方針等を掲示し、面会者や来訪者等に注意喚起を行い、感染症対策の理解と協力を得られた。

3. 人材の確保・育成の取組

- ①専門研修や施設内研修等を活用し、全職員が感染症発生予防や感染症蔓延防止を理解し、マニュアルに基づいた標準的な対応が実践できるよう支援する。
 - eラーニングを使用して研修を行った。
 - 外部研修やオンライン研修の内容についても資料等を活用し、各施設において伝達研修を行った。

4. 組織強化の取組

- ①地域や各施設の感染症発生状況を共有し、適切に対応することで感染症蔓延に努める。
 - グループウェア desknet's NEO を使用し情報共有を行った。
 - 感染発生状況については、継続して関連部署と連携を図り正確な情報共有が出来るようにしていく。
- ②業務継続計画（BCP）の策定を早期に行い、感染症発生時にはBCPに沿って迅速に対応できる体制を整える。
 - 非常事態に迅速に対応できるよう、作成したBCPに沿って体制を整えていく。

5. 経営基盤拡充の取組

- ①新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ感染症、感染性胃腸炎等の感染予防に係る必要物品について業務継続計画（BCP）を基準に情報共有を行い計画的な購入と有効活用にも努める。
 - 本部と連携し各施設、物品や衛生材料の適正な在庫管理、計画的購入に努めた。
 - 新興感染症発生に備え、日頃から本部、施設間での情報共有を行い、適正な在庫管理、物品購入を行っていく。
- ②標準予防策を徹底し、感染症発生予防と蔓延防止により、稼働率低下や社会資源利用が滞ることがないように努める。
 - 感染拡大により一時的な入退所の制限が発生した。
 - 必要な感染症対策を講じ、必要最低限の制限にし、稼働率の低下を防いでいく。

医療介護保険対策委員会

1. 令和6年4月予定の医療報酬・介護報酬の同時改定への対応
- ①委員会にて、国の動向や改定内容について情報発信・情報共有を図り、特養・老健の部門別に改定に向けた規程の見直し等の準備作業を行った。
 - ②早期から改定に向けて準備作業に取り組み、運営規程、重要事項説明書の改正や加算算定の体制届出を期限内に終える事ができた。
2. 運営規程・重要事項説明書等の統一化
- ①運営規程・重要事項説明書等の統一化に向け、法人本部が主体となり、各施設、事業所間の運営規程・重要事項説明書の表記内容や文言の相違等の修正を行った。
 - 各施設・事業所の特性や個別性を除き、運営規程・重要事項説明書の表記内容や文言の統一を図り、各施設・事業所の運営規程、重要事項説明書の統一基本フォーマットが完成した。
 - ②介護報酬改定及び運営に関する基準改定等に伴う届出について、期限内に行政機関に提出できるよう、情報発信や進捗状況の確認を行った。
 - 改定に伴う届出について、各施設・事業所が期限内に手続き・届出を行うことができた。
3. 加算算定、届出状況の比較検討
- ①各施設・事業所における加算算定の体制届出状況を一覧にした。
 - ②各施設・事業所の加算算定の体制届出状況について情報共有、比較検討を行い、算定可能な加算の算定に向けて取り組みを行った。
4. 実地指導等への対応
- ①各施設・事業所における実地指導・監査の受査内容や指導結果等について委員会で情報共有と対応の検討を行った。
 - ②実地指導における受査内容や指導結果等について、委員会で情報共有を行い、法人本部とも連携し、必要に応じ法人で統一した対応が行えるように努めた。
5. LIFE関連への対応
- ①LIFEフィードバックデータの活用について、各施設・事業所の取組状況の確認を行い、情報共有を図った。
 - ②各施設・事業所のLIFEフィードバックデータの活用の状況について情報共有は図れたが、対応方法の統一化には至っておらず今後の課題となった。

事故予防対策委員会

- 第3期中期経営計画に掲げる「医療・介護事故防止対策の徹底」に向けて、各施設の事故発生状況に応じた対策強化の方法を検討し安全管理・リスクマネジメントに取り組む。
1. 事故予防活動への取組
- ①法人内の事故発生状況を法人及び各事業所の委員会で共有し、事故予防対策の取り組みに活用する。
 - 各施設の事故発生状況を一覧にし、情報の共有を行った。
 - 法人統一の「事故予防の指針」作成にあたり、指針に記載すべき必要事項を検討し、作成した。
 - 法人統一の「事故予防の指針」に沿って、各事業所で事故予防対策の実施と、引き続き情報共有を行う。
 - ②事故防止対策に必要なリスクマネジメントや危険予知能力の強化を図るため、定期的な研修の実施と、職員全員が常に意識し事故防止対策に取り組む。
 - 各施設で事故予防の為にどのような研修を行っているか情報交換を行い、リスクマネジメントや危険予知トレーニングに繋がる研修の検討を行った。
 - 各事業所の職員が常に事故予防を意識できるよう研修の内容を検討し、事故予防に繋げる。
2. 危険予知トレーニングとミニ研修の実施
- ①Web会議でも可能な、リスクマネジメントや危険予知に関する研修の方法を検討し、定期的に実施する。
 - eラーニングを活用した事故予防、リスクマネジメントに関する研修の活用事例を紹介し、今後の活用方法を検討した。
 - 各施設の研修実施状況を確認した。
3. ケアカルテ様式の使用状況の把握と対応
- ①インシデント報告書に記載する項目の問題点や疑問に思う点を話しあい、記載する項目の入力方法やマスターの統一を検討した。
 - ②インシデントレポート作成にあたり、記載項目や入力方法の検討を実施したが、様式の検討にまでは至らなかった。
 - ③業務の無駄や時間短縮を図る上で、入力項目のルールを検討しパターン化・マスター化に取り組みレポート作成の簡素化と情報の共有が容易にできるように取り組んでいく。

身体拘束適正化検討委員会

1. 身体拘束適正化・高齢者虐待防止の推進
- ①各施設において委員会や研修を活用して、「身体拘束適正化のための指針」の内容の確認を行った。
 - ②「高齢者虐待防止のための指針」の作成に取り組んだ。
 - ③決められた委員会の開催や研修の実施などは実施できた。その中で「身体拘束適正化のための指針」の周知は出来ていたが、「高齢者虐待防止のための指針」については周知や適切な運用が出来なかった。
 - ④「身体拘束適正化のための指針」、「高齢者虐待防止のための指針」共に、指針に基づき、具体的な研修を行っていく。また、職員に周知出来るよう、研修や委員会などの機会を取り上げていく。
2. 身体拘束適正化・高齢者虐待防止のための取組
- ①各施設において、身体拘束や高齢者虐待についての研修の実施や定期的な委員会を実施した。
 - ②施設単位での取り組みが中心であり、法人での情報の収集や伝達及び共有が不十分であった。
 - ③身体拘束や高齢者虐待について、各施設から事例などを挙げ、当委員会でも検討できる機会を設けていく。
3. 職員研修の計画的開催
- ①研修計画
 - 新規採用者:入職時に実施
 - 現任者:身体拘束廃止研修は年2回以上実施
 - その他:法人委員会開催時にミニ研修の実施
 - 施設内で必要時に随時実施
 - ②各施設において、研修計画に基づいて研修を実施し、実施回数をクリアできた。また、Webなどを活用し施設毎にミニ研修を実施した。
 - ③引き続き研修計画に基づいて、職員研修が確実に実施できるようにしていく。
4. センサーコール等の使用状況の確認
- ①各施設において定期的にセンサーの使用状況の見直しを行い、使用が適切かの検討や検証は行えていた。
 - ②当委員会において、各施設でのセンサーや眠りスキャン等の使用状況の把握や新しいツールの活用方法の確認を行った。
 - ③引き続き新しいICT機器について、使用状況や有効な活用方法等の情報を共有していく。

ITシステム委員会

1. 活動方針
- ①法人のITシステムを構築あるいは再構築するための方策を検討する。
 - ②ITシステムを活用した業務改善及び業務効率化を検討する。
 - ③個人情報保護の観点から、法人のITシステムを検証し改善する。
 - ④法人のITシステムユーザーの立場に立った運用が可能となるよう配慮する。
 - ⑤新型コロナウイルス感染防止対策にITシステム面から貢献する。
2. 令和5年度活動内容
- ①グループウェア desknet's NEOの利用促進および運用管理
委員会にて協議し、下記の対応を実施した。
 - 各委員が自施設ユーザーのスケジュールの入力状況を確認し利用を促進した。
 - 電子会議室を21会議室運用した。
 - ワークフローを7種類運用した。
 - その他の機能の利用状況、課題等を委員会にて確認、適宜対応策を協議、実施した。
 - ②Web会議の開催支援および環境整備
 - システム面でのサポートを実施した。
 - Cisco、Zoomの有料版にて、時間制限なく使用可となっている。
 - ③新型コロナウイルス感染防止対策の実施
 - 各委員が自施設においてシステム面でのサポートを実施した。
 - 端末の準備、接続環境の整備等を実施した。
 - ④電子化(デジタル化、オンライン化)による事務の効率化の推進
 - グループウェア desknet's NEOの運用が定着し、法人内のスケジュール管理、情報伝達、情報共有の効率化の推進が図れた。
 - ⑤介護ロボット、ICT機器導入に関する情報収集、導入支援、利用促進、運用管理、および基盤ネットワークの運用管理
 - ICTに関する情報収集を継続的に実施した。
 - ICT機器導入に際し、ネットワーク環境の整備を実施した。
 - ⑥法人内システム・ネット環境の危機管理対策の検討、実施および関連情報の提供、注意喚起、法人の個人情報管理委員会との連携
 - 個人情報保護規程の見直し(改正個人情報保護法対応)を検討、実施した。
 - サイバー保険に加入した。

栄養士部会

1. 医療・介護サービス向上の取組

- ①ケアカルテシステムを有効活用し、多職種協働で栄養ケアマネジメントを実施した。また、他職種と連携して経口摂取支援に取り組んだ。
 - 栄養改善や経口摂取支援に向けてそれぞれの職種の専門的な視点から意見を出し合い、利用者の嚥下状態や栄養状態に応じた食事提供ができた。
- ②コロナ禍でも行事食等を工夫し、利用者の声を献立に反映させ、楽しみにしてもらえる食事提供に努めた。
 - コロナ禍においても四季折々の行事食を提供し、満足感のある食事提供に努めた。
- ③日々の衛生管理の強化により食中毒予防意識を高め、安全な食事を提供した。
 - 食中毒の発生はなく、安全な食事提供が行えた。
- ④非常食はローリングストックにより賞味期限の管理を行った。
 - 食事提供に係る災害時対応マニュアルに沿って、備蓄品の管理を適切に行った。

2. 地域貢献活動の取組

- ①在宅利用者や介護者に向けて、広報誌などで栄養や衛生管理に関する情報発信を行った。
 - 広報誌等に情報を掲載し、在宅部でアドバイスをを行うなど実施可能な方法で地域の方に向けて情報発信を行った。
- ②出前講座や実習生受け入れ依頼のあった施設では、感染予防対策をとりながら実施した。
 - コロナ禍で出前講座や実習生の受け入れ依頼は少なかったが、依頼があれば感染予防対策をとり可能な範囲で実施した。

3. 人材の確保・育成の取組

- ①施設内外の研修にオンラインで参加して自己研鑽に努めた。
 - オンラインで開催された施設内外の研修に積極的に参加し、最新情報の収集や専門知識の習得に努めて業務に活かした。
- ②衛生管理や食中毒予防について、施設内研修や朝礼、会議等を通じて職員への啓発を行った。
 - 衛生管理や食中毒予防に関する意識付けのため、全職員に対して啓発を行った。

4. 組織強化の取組

- ①部会はWeb開催し、施設間の情報交換や課題の検討を行った。
 - 部会で情報交換を行い、食事提供に係るマニュアルに沿った統一された適正な食事サービスの提供に努めた。
- ②ケアカルテシステムを活用して情報共有を効率よく行い、栄養改善や自立支援、重度化防止に向けて他職種と連携して取り組んだ。
 - 各専門職の見解や記録を元に利用者の栄養改善や自立支援にむけて前向きに取り組めた。

5. 経営基盤充実の取組

- ①付加食品やトロミ剤は定期的に使用状況を確認し、適宜見直しを行った。
 - 定期的に見直しを行うことで、付加食品やトロミ剤を適切に使用することができた。
- ②厨房職員と連絡を取り合い厨房機器の異常の早期把握に努め、節電・節水について日々啓発を行った。
 - 厨房職員との連絡を密にすることで厨房機器の異常の早期発見につながった。また、節電・節水について、日々の啓発で意識付けを行うことができた。

看護部会

1. 医療・介護サービス向上の取組

- ①各施設の特性を鑑みながら、看護の専門性を活かした情報を発信していく。
 - 新卒者研修において高齢者の特性、緊急時対応、感染症対策の研修を行った。
- ②医療、介護の安全を図りリスクマネジメントを徹底する。また利用者の特性を理解しヒヤリハットを活用し医療、介護の事故防止に努める。
 - 感染対策は行っていたが各施設、感染拡大があった。
 - ヒューマンエラーによる誤薬があった。

2. 地域貢献活動の取組

- ①各施設の感染症状況を踏まえ、安全に配慮した環境を調整したうえで看護学生、介護実習生や小中学生の職業体験を受け入れ、次世代の医療、介護

分野を支える人材の育成に貢献する。

- 県立看護専門学校の実習を受け入れた。
- 初任者研修、外国人向け初任者研修の講師を務めた。

3. 人材確保・育成の取組

- ①ワークライフバランスを視野に入れ、職員のメンタルヘルスケアに取り組む事で働き続けられる職場環境を整え離職防止に努める。
 - キャリア採用に対し、看護職員の教育目標、教育体制に沿って指導に取り組んだ。
- ②次世代の人材を育成する為に、フォローアップ研修、再就職セミナーなど研修を開催し看護技術のスキルアップを図る。
 - 施設内外の研修、オンライン研修、eラーニング研修に参加した。
- ③退職者の補充が十分でなかった。

4. 組織強化の取組

- ①施設間、部署間での情報共有により、連携強化と業務改善に継続して取り組み働き方改革に努める。
 - 部会開催ごとに施設間の感染症発生情報の共有を行い、随時、業務改善等の見直しを行った。
- ②感染症対策委員会と連携し、非常事態を想定した業務継続計画(BCP)作成と感染症発生時の他施設への応援体制を構築する。
 - 新型コロナウイルス感染症発生時、随時情報を共有し感染拡大、蔓延防止に取り組んだ。
 - 今後も継続して組織間での情報共有を密に行い、非常事態時は迅速に協力体制を整えていく。

5. 経営基盤充実の取組

- ①新型コロナウイルス感染症予防に係る必要物品について、管理部、感染症対策委員会と連携を強化し情報共有を行いながら業務継続計画(BCP)を作成し、計画的な購入と有効活用に努める。
 - 業務継続計画(BCP)を作成した。
 - 各施設間で情報共有を行い感染症発生時に必要な物品の適正な在庫管理に努めた。
- ②組織、施設全体の稼働率向上に努め、サービス活動収支比率3%以上の収益確保を努力目標とする。
 - 新型コロナウイルス感染症発生により一時的に入退所の制限により稼働率の低下がみられた。

ケアワーカー部会

1. 医療・介護サービス向上の取組

- ①各施設間の業務内容・人員配置の統一化に向け業務のタイムスタディを取り根拠に基づいたケアの実践の取り組みを進めた。
- ②コロナ禍後も、他職種との連携を図り感染症蔓延防止とケアサービス提供の維持の両立を行った。各施設で、利用者の安全と尊厳を守り、安心して生活が送れるよう取り組みを実施することができた。
- ③各委員会と連携し、介護事故や虐待、身体拘束、不適切ケアの防止の取り組みを強化した。
- ④LIFEからのフィードバックデータを活用し科学的根拠に基づいたサービス提供に努めケアの質向上に取り組みを進めた。

2. 地域貢献活動の取組

- ①法人本部と連携を図り、感染対策を講じた上で学校への出前講座を実施し福祉の魅力等を伝えることができた。
- ②地域への出前講座として、小学生への介護仕事の説明講座・中学生の就労体験や職場見学の受け入れ等を行った。

3. 人材の確保・育成の取組

- ①教育研修委員会と連携し、WEB研修を活用し知識と技術の習得に努めた。
- ②新人育成の進捗状況を確認し、情報共有に努めた。
- ③職員育成については、職務評価表を活用しフィードバックすることで順調に取り組めた。

4. 組織強化の取組

- ①介護業務の標準化と効率化に向けて業務改善の取り組みを、業務改善推進委員会と合同で委員会を開催し、施設ごとの介護業務内容の共有とICT機器の効果的な活用に努めた。
- ②ICT機器に関する情報交換にて、効果的な活用を行うことができた。
- ③介護業務の標準化と効率化について、継続課題を業務改善推進委員会や部会で連携し取り組んでいく。

相談員部会

1. 法人内施設間の連携体制の強化

- ①各施設で実施している加算算定に対する取り組み、感染症対策や面会方法について意見交換を行った。
- ②相談員間で常に情報交換を行い、法人内の連休中の面会と外出や感染症防止対応について、家族関係者へ情報提供することができた。
- ③ショートステイ担当の相談員の情報交換ができる場を設け、意見交換を行った。
- ④ショートステイで行っている稼働率向上の取り組み、新規利用者の情報の伝達方法など工夫していることの情報交換を行い、業務に反映することに繋がった。

2. サービス自己評価

- ①自己評価について相談員間で情報共有を図り、各事業所の評価について調整を行った。
- ②法人内で評価内容の比較を行い、サービス内容について標準化を図ることができた。
- ③サービスの自己評価を実施し、評価内容についての分析を通じて、施設間で異なる評価の減少に繋げ、利用者や家族の満足度の向上に繋げていく。

3. 相談員の業務改善と超過勤務の減少

- ①各施設の業務内容の情報共有と意見交換を行い、事務処理の作業効率の向上に努めた。
- ②ケアカルテシステムの有効な活用を行い、時間外勤務の削減に努めた。
- ③意見交換を行うことで情報共有や業務改善の機会づくりとなり業務に反映することができた。
- ④入退所の調整業務や事務処理業務を行う上で、オンライン化を更に進めると共に業務改善について積極的に検討していく。

4. 介護保険制度に係る報酬改定への速やかな対応

- ①介護報酬改定について、適切な加算が算定できるように医療介護保険対策委員会と連携を図った。
- ②LIFE関係の加算算定についても相談員部会で意見交換を行った。
- ③介護報酬改定やLIFE関連など新たな加算の算定要件の確認など意見交換を行うことでスムーズに対応することに繋がった。
- ④報酬改定後の情報把握に努め、適正に加算が算定できるように他職種と連携していく。

リハビリ部会

1. リハビリテーションサービスの質の向上

- ①研修担当を作り、毎月の施設内症例検討会と文献抄読会、3ヶ月毎の両老健合同勉強会の開催について計画を立て実施した。
- ②施設内症例検討会と文献抄読会は概ね月1回開催することが出来た。
- ③施設内研修については全職員が発表し、合同勉強会については経験年数の浅い職員を中心に発表機会を設け意見交換も行った。
- ④勉強会の開催については定期的に行えたが、業務に活かせる内容になるよう実施方法や内容を検討する必要がある。併せて施設外の研修等についても積極的に取り組めるよう働きかけていく。

2. 連携強化

- ①各施設指導担当を決め指導体制を整え件数増加に向け働きかけた。
- ②生活機能向上連携加算については令和5年度長浜メディケアセンター担当分127件、坂田メディケアセンター担当分81件であり、令和4年度それぞれ115件、78件よりわずかに増加した。うち特別養護老人ホームの加算についてはアンタレスの8件のみであるが令和4年度1件に比べ増加した。
- ③新たに加算算定に至った施設はなく令和4年度から継続するかたちとなった。
- ④昨年度より連携している施設については、感染時にも電話や動画を活用し加算算定が出来た。新たな連携施設増加については担当者からの働きかけや、特別養護老人ホームの生活機能向上連携加算の認識が不十分であることが考えられ、来年度の課題であるとする。

3. 機能訓練部門

- ①アンタレスにおける生活機能向上連携加算取り組み状況について情報を共有し、取り組むことによる利得について理解を促し、他施設での算定取り組みを促した。
- ②各施設にて個別機能訓練加算算定の取り組みについては継続的に行われたが、生活機能向上連携加算の取り組みについては、業務手間が増える点から消極的な結果となった。
- ③今後、各施設におけるICT機器導入等による業務改善が進むことで生活機能向上連携加算算定要件に対応できる時間を創出できることが期待される。

事務部会

1. 労務部門

- ①クロノスを使って有休の自動発令を行うため、クロノスからの自動発令に適さない事例をピックアップし、処理方法をまとめた。
- ②自動発令においての注意事項をパターン分けし、対応をまとめた。年休の自動発令に際しての注意ポイントが絞れた。
- ③勤務処理入力後の確認にチェックシートの活用を促した。チェックシートが十分に利用されるには至らなかったが、新たにクロノスを導入したセフィロト病院へも、チェックシートの活用方法の伝達・周知を行った。

2. 会計部門

- ①支払処理、会計処理を本部一括で行うことを開始し、徐々に件数を増やした。本部集中という認識が浸透し、標準化や効率化に繋がった。
- ②電子帳簿保存法の対応としてTKC証憑保存システムを導入した。
- ③消費税インボイス制度の対応としてインボイス保存の仕組みを構築した。
- ④レセ業務の標準化に向けて施設毎のレセ業務の状況確認を行った。
- ⑤安定した施設運営のため、管理職に気付きのある情報を提供する認識が深まった。

施設ケアマネ部会

1. 医療・介護サービス向上の取組

- ①アセスメントを重視し、個別性のある施設サービス計画の作成に多職種連携して取り組んだ。多職種協働により質の高いケアが提供できるよう施設サービス計画の策定ができた。
- ②LIFEの活用においては、フィードバックデータのうち全国対比など、主に自施設の状況把握に活用した。LIFEのフィードバックデータのうち、個別データ活用までには至らなかった。

2. 地域貢献活動の取組

- ①大学、高等学校からの実習生を受け入れ、指導や助言を行った。
- ②コロナ禍で一部ではあるが出前講座等地域へ出向いての活動を行った。

3. 人材の確保・育成の取組

- ①法人内研修および法人外（WEB含む）研修を積極的に受講した。研修受講により専門性を高めた。
- ②各施設ケアマネ間で、情報共有・情報交換を活発に行った。施設間の連携を密にして、業務の円滑な遂行や、相談ごと、課題への対応などにも役立った。

4. 組織強化の取組

- ①ケアカルテの活用により多職種間での情報共有を図り、カンファレンスの円滑化や、ケアプランの作成、評価につながった。
- ②ケアカルテの活用で情報の入手が容易となり業務改善につながった。多職種間や法人他事業所間での情報共有もでき有効活用できた。

5. 経営基盤充実の取組

- ①多職種が連携して算定可能な加算を適切に算定した。加算の算定、要介護認定ともに適正に行った。
- ②利用者の状態により必要と判断した場合は、家族に相談し変更申請を促した。更新認定に際しても調査前に事前に状態把握を行い、状態に応じた調査となるよう努めた。

居宅ケアマネ部会

1. 各ケアプランセンターの計画件数の確保

- ①事業所ごとに計画件数の確保に努めた。
- ②業務の困りごとについて積極的に意見交換をした。
- ③業務用スマホについて、ナビゲーション(地図)やスケジュール管理アプリの利用について意見交換した。

2. 法人内のサービス事業所への紹介率向上の取組

- ①事業所ごとに自法人への紹介率アップを意識しているが部会としては具体的な取り組みは出来なかった。自法人への紹介率アップは継続して取り組む課題である。部会開催時の議題として取り上げていく。
- ②紹介率の前年9月と今年9月の比較
 - 訪問介護:全体で54.5%→51.5%、3.0%減となった。
 - 通所介護:全体で56.3%→55.6%、0.7%減となった。
 - 訪問看護:全体で37.2%→37.0%、0.2%減となった。

3. マニュアルの見直し

- ①昨年度からの継続で業務マニュアルの見直しを実施した。
- ②今年度中に原案作成し、来年度に完成する。
- ③今回の見直しは、3. マニュアルの見直し、4. 業務継続計画の策定を中心に行った。

4. 業務継続計画の策定

- ①法人のプロジェクトチームが作成した原案をもとに事業所ごとの地域性に応じた事業継承計画を作成した。
- ②策定後も法人のBCP検討プロジェクトチームと連携を図り、BCPによる訓練の実施と定期的な内容の見直しを行う。

通所部会

1. 全国・湖北圏域・湖東東近江圏域のリーサーチの実施

- ①全国・湖北・湖東東近江圏域の介護保険事業状況のデータや通所系サービスの経営状況等の情報を収集して現状を把握し、部会で情報を共有して今後の運営方針の参考にした。
- ②コロナ5類移行後も全国的に利用者の通所系サービス利用控えが続いている状況であり、湖北・湖東東近江圏域も同様の状況であることが分かった。
- ③通所系サービスの受給者数は減少傾向が続いており、利用者の新規獲得は容易ではないことが分かった。
- ④湖北圏域では機能訓練特化型の通所介護事業所の割合が多く、入浴やお世話主体の従来型サービス事業所も機能訓練特化型にシフトしている傾向がある。しかし、中重度者ケアを対象としたサービスも必要枠であり、青祥会としては全ての要介護・要支援者を支援できる体制を維持していく必要がある。

2. 通所系サービスにおける

事業継続計画(BCP)の策定

- ①自然災害や停電などのインフラに障害が発生し事業所の運営が一時的に困難となった場合のサービス提供継続について、利用者の居住地域に応じて法人内の他事業所が協力し、介護保険制度の特例適用にて利用者へのサービス提供が途切れることなく提供できる体制について周知を図った。
- ②台風や降雪など予め天候の悪化が予想される場合には、事業所間で協力体制を取ることが可能であることを事前に申し合わせ、万が一に備えた。令和5年度については、実績は発生しなかった。

VI

教育研修・外部表彰

教育研修実績

- ①新採用・キャリア採用者研修 …… 令和5年4月1日(土)、4月3日(月)の2日間集合研修を実施。
- ②階層別研修…………… 対面で講義とグループワークを行う。受講後レポートを提出。
- ③専門研修…………… 「Care styles consulting」無料eラーニングを採用し、施設内のPCや個人のスマートフォンから自由に受講できる環境を整えた。
- ④研究…………… 第18回青祥会研究発表大会を令和6年3月10日(日)長浜文化芸術会館で開催。

対象者		研修内容	実施日	参加者数(人)	受講率(%)
①新人研修	新入職員・中途採用職員	①青祥会の理念と歴史、職員の心構え ②身体拘束、虐待防止 ③介護の基本について ④高齢者介助技術	令和5年4月1日(土)	新人：15人	100
		①高齢者と病気の基礎知識 ②介護保険について ③接遇 ④高齢者の健康管理 ⑤就業規則、個人情報、法令遵守	令和5年4月3日(月)	中途：13人 合計：28人	
②階層別研修	サブリーダー研修	組織論・理念・役職別職務内容・演習	令和5年 8月22日(火) 令和5年 8月25日(金)	60	96.7
	リーダー研修	組織論・理念・役職別職務内容・演習	令和5年 9月27日(水) 令和5年 9月29日(金)	45	100
	副主任研修	組織論・理念・役職別職務内容・演習	令和5年10月30日(月)	24	100
	主任研修	組織論・理念・役職別職務内容・演習	令和5年11月28日(火) 令和5年12月 1日(金)	28	100
	係長研修	組織論・理念・役職別職務内容・演習	令和5年12月 5日(火)	13	100
	管理職研修	労務管理	令和5年 8月24日(木)	38	92.7
③専門研修	全職員	①「Care styles consulting」 無料eラーニングでの個別学習	随時	579	一人平均 17講座視聴
		②褥瘡研修	令和5年11月30日(木)	39	
		③接遇研修	令和6年 1月23日(火)	44	録画DVD により 全職員が視聴
④研究	全職員	第18回研究発表大会	令和6年 3月10日(日)	186	

第18回研究発表大会

令和6年3月10日(日)に、第18回研究発表大会を長浜文化芸術会館にて開催しました。新型コロナウイルス感染防止のため、令和元年度から開催を中断していましたが、昨年度、Web形式ではありましたが4年ぶりに研究発表大会を再開しました。

今年度は感染防止対策を徹底し、午前中半日の開催という新たな形で会場集合形式で開催しました。各施設の演題および審査結果は以下のとおりです。各施設からの発表に対して、活発な質疑応答が行われました。今後も研究や様々な取り組みを継続し、質の高い専門的サービスの提供に努めて参ります。



【大会テーマ】 地域へ届けよう新たな医療と福祉の実践 ～新たな時代へのスタート～
【開催日】 令和6年3月10日(日) 9時00分～12時30分
【会場】 長浜文化芸術会館

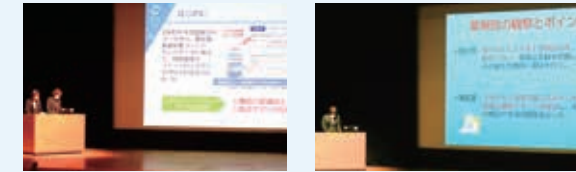
審査結果

- 金賞** 特別養護老人ホーム アンタレス
演題：LIFEフィードバックからのケアの取り組み
～施設サービス計画書へのPDCAサイクル定着をめざして～
- 銀賞** 介護老人保健施設 長浜メディケアセンター
演題：入所施設で行う減薬への取り組み
～多職種協働の中での看護師の役割～
- 銅賞** セフィロト病院
演題：栄養強化粥の導入
～オーダーメイドの食事提供を目指して～



各施設の演題

- 長浜長寿デイサービスセンター
演題：安心できる在宅生活の継続に向けて
～「ここがよりどころ」思いに寄り添う支援～
- 坂田ケアプランセンター
演題：利用者数増加の取り組みから見てきた地域の実情
～在宅ケアマネの役割って？～
- デイサービスセンター 青芳
演題：通所介護事業所の役割とは
～個別機能訓練は家族支援に繋がる～
- デイサービスセンター やまびこ
演題：地域にあり続けたい『やまびこ』
～選ばれる施設をめざして Restart ～
- 介護老人保健施設 坂田メディケアセンター
演題：ICTの有効活用
～眠りSCANを通して見えてきたこと～



特別講演(えにしアカデミー研究報告)

演 題：高齢者介護の今までと2040年問題に向けた取り組み
～今、私たちができること～
発表者：特別養護老人ホーム アンタレス
療養課長 東郷 和也



外部表彰

外部表彰受賞者数

表彰名	表彰日	所属	受賞者数(人)
滋賀県介護老人保健施設協会表彰	令和5年9月22日	長浜メディケアセンター	5
		坂田メディケアセンター	2
		合計	7
精神保健福祉事業功労者 厚生労働大臣表彰	令和5年10月27日	セフィロト病院	1
日本精神保健福祉連盟会長表彰	令和5年10月27日	セフィロト病院	1
長浜市社会功績者表彰	令和5年11月3日	セフィロト病院	1
滋賀県社会福祉協議会会長表彰	令和5年11月10日	長浜メディケアセンター	1
		坂田メディケアセンター	4
		青浄苑	3
		アンタレス	4
		坂田青成苑	6
		青芳	4
		やまびこ	1
		合計	23
滋賀県老人福祉施設協議会会長表彰	令和5年11月14日	青浄苑	7
		アンタレス	5
		坂田青成苑	2
		青芳	3
		やまびこ	1
		合計	18
全国社会福祉協議会会長表彰（法人・施設功労）	令和5年11月15日	坂田メディケアセンター	1
全国社会福祉協議会会長表彰（永年勤続30年）	令和5年11月15日	長浜メディケアセンター	1
		青浄苑	1
		坂田青成苑	1
		青芳	1
		合計	4
滋賀県民間社会福祉事業職員共済会 永年勤続会員表彰（30年）	令和5年11月16日	アンタレス	1
滋賀県民間社会福祉事業職員共済会 永年勤続会員表彰（20年）	令和5年11月16日	長浜メディケアセンター	1
		坂田メディケアセンター	2
		青浄苑	2
		アンタレス	1
		坂田青成苑	1
		青芳	2
		やまびこ	1
		合計	10
全国老人保健施設協会表彰	令和5年11月21日	長浜メディケアセンター	1
社会福祉関係功労者 滋賀県知事表彰	令和5年11月21日	やまびこ	1
社会福祉関係功労者 愛荘町社会福祉協議会会長表彰	令和5年12月2日	やまびこ	1
日本精神科病院協会 永年勤続者表彰（30年）	令和5年12月20日	セフィロト病院	1
滋賀県病院協会 優秀職員会長表彰	令和6年1月21日	セフィロト病院	1
滋賀県病院協会 永年勤続会長表彰（15年）	令和6年1月21日	セフィロト病院	2
滋賀県精神保健福祉協会表彰	令和6年2月11日	セフィロト病院	2
受賞者数合計			76

学会・研究会等発表

施設名	開催日時	演題名	学会・研究会名
長浜 メディケア センター	令和5年11月22日	感染対策と稼働率維持の両立に向けて ～日本一の老健を目指して～	第34回 全国介護老人保健施設協会 宮城
	令和6年2月22日	コロナフレイルの改善に向けた取り組み ～COVID-19クラスター発生による入所者への影響～	第42回 滋賀県社会福祉学会
坂田 メディケア センター	令和5年9月22日	ウィズコロナ時代における通所リハビリの必要性 ～『家族』という評価スケールからの取り組み～	第21回 近畿ブロック 介護老人保健施設大会 滋賀
	令和5年11月22日	ICTの有効活用 ～「眠りSCAN」を導入し見えてきたこと～	第34回 全国介護老人保健施設大会 宮城
	令和6年2月2日	ICTの有効活用 ～「眠りSCAN」を導入し見えてきたこと～	滋賀県介護老人保健施設協会事例発表会Ⅱ
南長浜 地域包括 支援センター	令和5年9月14日	令和5年度 介護支援専門員研修専門課程Ⅱ	令和5年度 介護支援専門員研修専門課程Ⅱ
	令和5年10月11日	令和5年度 介護支援専門員研修専門課程Ⅱ	令和5年度 介護支援専門員研修専門課程Ⅱ
	令和5年10月29日	認知症高齢者等見守り声かけ訓練の開催について	六荘連合自治会長会議
	令和5年11月6日	令和5年度 介護支援専門員研修専門課程Ⅱ	令和5年度 介護支援専門員研修専門課程Ⅱ
	令和5年11月20日	令和5年度 介護支援専門員研修専門課程Ⅱ	令和5年度 介護支援専門員研修専門課程Ⅱ
	令和5年11月29日	講演「認知症」ってなに？ ～誰もが笑顔で支え合える地域を目指して～	南長浜地域包括支援センター・ セフィロト病院認知症疾患医療センター 共催研修
認知症疾患 医療センター	令和5年9月	講義「Ⅲ 診療における実践編」 「Ⅳ 地域生活における実践編」	滋賀県認知症相談医養成研修 （オンデマンド配信）
	令和5年11月29日	講演「認知症」ってなに？ ～誰もが笑顔で支え合える地域を目指して～	市民公開講座
	令和6年2月19日	講義「認知症とその対応について」 グループワーク、意見交換・助言	長浜市居宅介護支援事業所研修会

地域貢献活動

施設名	開催日時	活動内容	活動場所
長浜 メディケア センター	令和5年4月21日	〔出前講座〕 認知症予防体操 他	神田まちづくりセンター
	令和5年5月19日	〔出前講座〕 介護保険制度 他	神田まちづくりセンター
	令和5年7月6日	〔出前講座〕 サルコペニア 他	春近公民館
	令和5年9月26日	〔出前講座〕 認知症予防の食事と栄養 他	神田まちづくりセンター
	令和5年10月13日	〔出前講座〕 平均寿命と健康寿命 他	中山町会館
	令和5年10月21日	〔令和5年度 健康フェア〕 健康チェック 他	長浜メディケアセンター
	令和5年11月7日	地域内清掃	神田町内
	令和5年12月15日	リハビリテーション基礎講座	長浜北星高校
	令和6年1月19日	〔出前講座〕 高齢者の健康 他	神田まちづくりセンター
	令和6年2月16日	〔出前講座〕 四肢、体幹体操 他	神田まちづくりセンター
	令和6年3月15日	〔出前講座〕 新聞体操 他	神田まちづくりセンター
坂田 メディケア センター	令和5年9月24日	介護における安全の確保とリスクマネジメント	外国人向け介護職員初任者研修
	令和5年10月14日	老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴	外国人向け介護職員初任者研修
やまびこ	令和5年4月28日	学内合同業界研究会 介護体験型教室	滋賀県立愛知高校
南長浜 地域包括 支援センター	令和5年5月19日	認知症サポーター養成講座	(株) 平和堂
	令和5年6月1日	認知症サポーター養成講座	(株) 平和堂
	令和5年7月21日	認知症サポーター養成講座	(株) 平和堂
	令和5年8月7日	認知症サポーター養成講座	加田西町会館
	令和5年10月14日	常喜東・西町合同人権学習会 認知症サポーター養成講座	常喜町会館
	令和5年11月8日	公園町老人クラブ（湖城会） 認知症サポーター養成講座	公園町自治会館
	令和5年11月16日	神田地区人権のつどい 認知症サポーター養成講座	神田まちづくりセンター
	令和5年11月21日	高齢者虐待対応出前講座	高齢者虐待対応出前講座
	令和6年3月26日	健体康心研究会 認知症サポーター養成講座	六荘まちづくりセンター
認知症疾患 医療センター	令和5年7月27日	長浜市認知症関係者連絡会議	長浜市役所
	毎月第2木曜	長浜市認知症初期集中支援チーム員会議	長浜市役所（ウェブ会議）
	4月13日、7月13日、 11月9日、3月7日	長浜市認知症初期集中支援チーム員会議	長浜市役所（ウェブ会議）
	9月1日、3月22日	湖北地域認知症疾患支援連携推進会議事務局会議	長浜保健所
	令和6年10月27日	長浜長寿ダイサービスセンター運営推進会議	長浜市西部福祉ステーション

VII

行事

VIII

青祥会における 新型コロナウイルス感染防止対策

新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行となり、社会活動の制限が徐々に緩和されていく中、青祥会も感染防止対策を十分に行ったうえで、一部の行事を再開しました。

令和5年
11月12日(日)
米原市体育館

青祥会理事長杯争奪ソフトバレーボール大会



飛祥会新人歓迎ボウリング大会

令和5年
11月24日(金)
ラピュタボウル
彦根



下記の行事については、新型コロナウイルス感染防止のため令和5年度も開催を中止しています。

- 青祥会理事長杯争奪ソフトボール大会 …… 例年の実施時期 9月
- 飛祥会親睦旅行 …… 例年の実施時期 7月 ～ 12月
- 飛祥会忘年会 …… 例年の実施時期 12月

■新型コロナウイルス感染防止対策

1. 青祥会の新型コロナウイルス感染防止対策

新型コロナウイルス感染症は、令和元年12月に中国湖北省武漢市にて発生し、瞬く間に世界中に感染が拡大しました。

青祥会は、患者・利用者の皆さまの命と健康を守るため、令和2年4月11日に「新型コロナウイルス感染症対策室」を発足させ、医療と介護の連携の下、各施設の面会や各種行事の開催、実態調査や実習の受入れ、取引業者への対応、職員の業務外の行動自粛等に関する方針の決定や周知、施設内で感染症が発生した場合の対応等に取り組んできました。

令和5年5月8日付けで、新型コロナウイルス感染症は2類相当から5類へ移行となり、政府の方針が緩和されましたが、青祥会は独自の基準を制定し、引き続き感染防止対策を継続しています。

(1) 令和5年5月7日までの対応

① 政府や滋賀県の方針、感染の拡大状況に応じた対応を実施

新型コロナウイルス感染症対策室にて、政府や滋賀県の方針、感染の拡大状況に応じた各種対応方針を協議、決定した。

- 令和2年4月11日 新型コロナウイルス感染症対策室発足
- 対策室会議開催総数…22回
- 電子会議室での協議案件数…54件

② 青祥会の方針策定、周知徹底

青祥会の方針を周知するための通知文書を発出し、グループウェア(デスクネッツネオ)を活用して全職員に周知徹底した。

- 青祥会の感染防止対策の方針を発出
- 最終25版を令和4年12月22日発出
- 上記方針とは別に個別案件に関する通知を別途31通発出

(2) 令和5年5月8日以降の対応

新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類へ移行となり、政府の方針が緩和される中、青祥会独自の基準を制定し、感染防止対策を継続した。

また、令和5年10月以降の医療提供体制を示した令和5年9月15日付の厚生労働省事務連絡の発出を受け、下記のとおりに対応とした。

① 5月8日以前から継続している対策

- マスク着用、手洗い・手指消毒、日々の健康管理等基本的対策の継続
- 患者・利用者が感染した場合の対応、職員が感染した場合の対応、休務基準に関する青祥会独自の基準を継続

② 5月8日以降、変更、緩和した対策

- 新型コロナウイルス感染症対策室を廃止し、法人常設の感染症対策委員会に業務を継承
- 職員の業務外の行動の緩和、福利厚生施設の利用再開(感染リスクを考慮した上での行動とする)
- 対面面会の再開(予約制、面会場所・人数・時間・回数等の制限を設ける)
- 実習受入れ、見学者受入れ、実態調査等のための訪問・来訪、取引業者による施設内作業の再開

③ 5月8日以降の法人の感染防止対策の方針の発出

政府の方針や滋賀県内の感染拡大状況に応じ青祥会方針を適宜更新、周知徹底した。

- 令和5年5月8日以降の方針発出
- 令和5年10月1日以降の方針発出

2. 新型コロナウイルス感染症陽性者数 (令和2年4月1日～令和6年3月31日)

		セフィロト 病院	長浜 メディケア センター	坂田 メディケア センター	青浄苑	アンタレス	坂田 青成苑	青芳	やまびこ	法人本部	年度別 合計
令和2 年度	利用者	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	職員	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
令和3 年度	利用者	3	0	52	2	0	0	0	1	0	58
	職員	5	0	14	2	5	3	1	3	2	35
	合計	8	0	66	4	5	3	1	4	2	93
令和4 年度	利用者	69	28	20	56	55	59	42	11	0	340
	職員	44	29	34	35	34	40	25	15	1	257
	合計	113	57	54	91	89	99	67	26	1	597
令和5 年度	利用者	19	41	13	5	61	24	3	35	0	201
	職員	27	46	25	12	57	16	15	24	2	224
	合計	46	87	38	17	118	40	18	59	2	425
合計	利用者	91	69	85	63	116	84	45	47	0	600
	職員	77	75	73	49	96	59	41	42	5	517
	合計	168	144	158	112	212	143	86	89	5	1,117

IX

数値・統計データ

貸借対照表

資産の部		負債の部	
流動資産	1,752	流動負債	444
固定資産	11,448	固定負債	468
基本財産	2,339	負債の部合計	912
その他の固定資産	9,109	純資産の部	
		純資産の部合計	12,288
資産の部合計	13,200	負債及び純資産の部合計	13,200

令和6年3月31日現在

単位：百万円

事業活動計算書

勘定科目	
サービス活動収益	5,597
サービス活動費用	5,375
サービス活動増減差額	222
サービス活動外収益	85
サービス活動外費用	4
サービス活動外増減差額	81
経常増減差額	303
特別収益	16
特別費用	18
特別増減差額	△ 2
当期活動増減差額	301

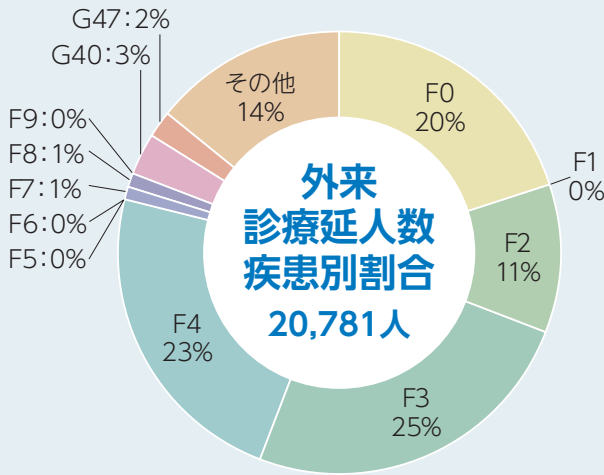
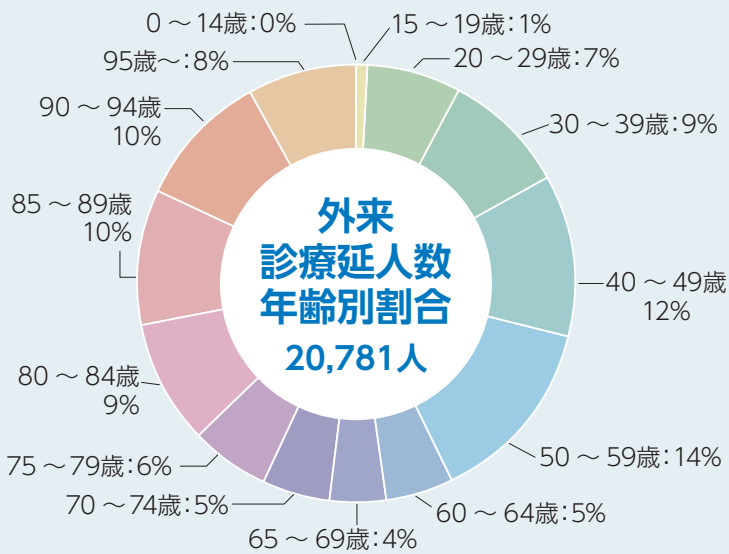
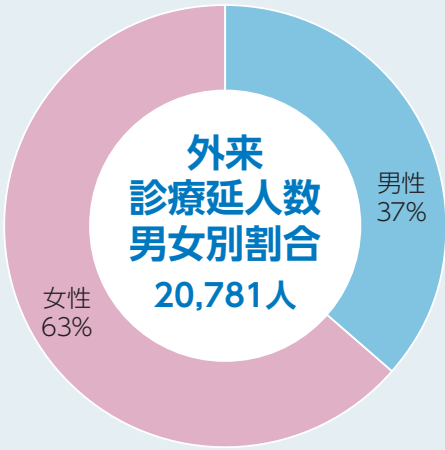
自 令和5年4月 1日
至 令和6年3月31日

単位：百万円

外来患者数

診療実日数（日）		292
平均外来患者数/日（人）		71.2
診療実人数（人）		2,890
診療延人数（人）		20,781
性別（人）	男性	7,595
	女性	13,186
年齢別（人）	0～14歳	2
	15～19歳	128
	20～29歳	1,436
	30～39歳	1,887
	40～49歳	2,466
	50～59歳	2,933
	60～64歳	1,010
	65～69歳	882
	70～74歳	1,119
	75～79歳	1,224
	80～84歳	1,920
	85～89歳	2,040
	90～94歳	2,097
	95歳～	1,637
科別（人）	精神科	17,972
	内科	2,496
	認知症疾患 医療センター	313
疾患別（人）	F0	4,218
	F1	81
	F2	2,215
	F3	5,276
	F4	4,703
	F5	22
	F6	10
	F7	299
	F8	104
	F9	25
	G40	560
	G47	401
	その他	2,867

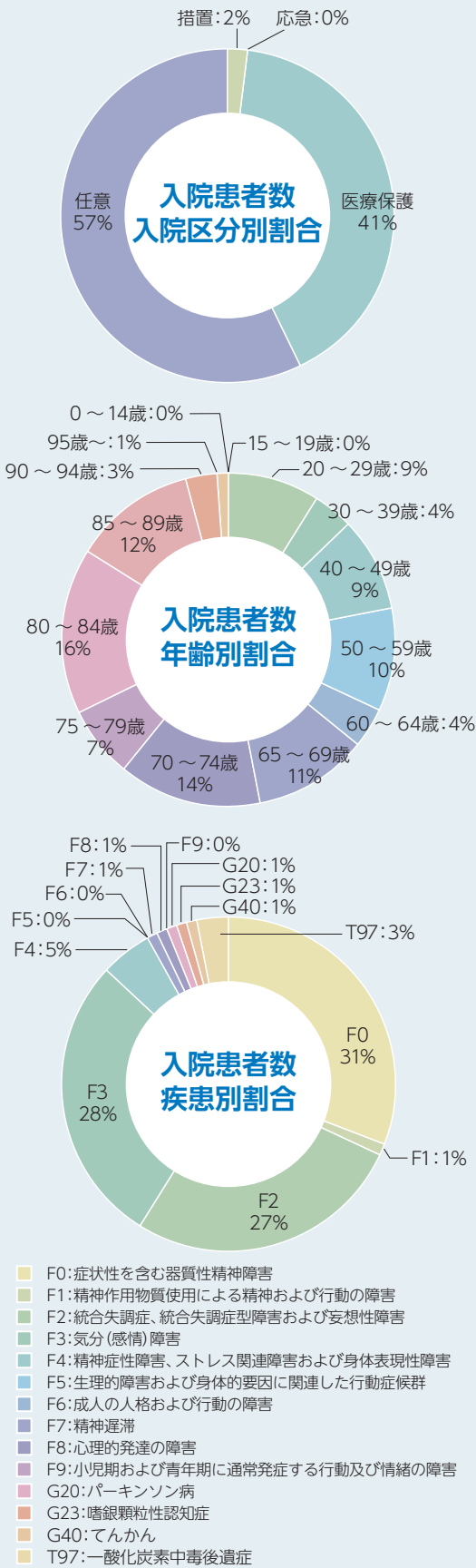
- F0:症状性を含む器質性精神障害
- F1:精神作用物質使用による精神および行動の障害
- F2:統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害
- F3:気分(感情)障害
- F4:精神症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
- F5:生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
- F6:成人の人格および行動の障害
- F7:精神遅滞
- F8:心理的発達障害
- F9:小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害
- G40:てんかん
- G47:不眠症
- その他



セフィロト病院

入院患者数

入院患者延人数（人）		58,228
病棟別（人）	精神一般病棟	14,777
	精神療養病棟	21,471
	認知症治療病棟	21,980
平均入院患者数/日（人）		159.1
病棟別（人）	精神一般病棟	40.4
	精神療養病棟	58.7
	認知症治療病棟	60.1
病床利用率（％）		88.9
平均在院日数（日）		381
病棟別（日）	精神一般病棟	107
	精神療養病棟	677
	認知症治療病棟	350
新規入院患者数（人）		159
入院形態（人）	措置	4
	応急	0
	医療保護	65
	任意	90
年齢別（人）	0～14歳	0
	15～19歳	0
	20～29歳	14
	30～39歳	7
	40～49歳	14
	50～59歳	16
	60～64歳	7
	65～69歳	17
	70～74歳	23
	75～79歳	11
	80～84歳	26
	85～89歳	19
	90～94歳	4
疾患別（人）	95歳～	1
	F0	49
	F1	2
	F2	43
	F3	45
	F4	8
	F5	0
	F6	1
	F7	1
	F8	1
	F9	0
	G20	1
	G23	1
	G40	2
	T97	5
新規退院患者数/年（人）		147



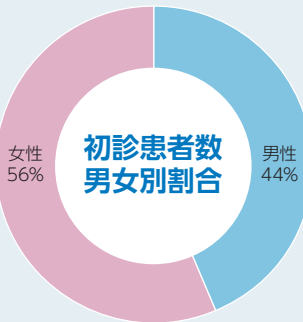
セフィロト病院

認知症疾患医療センター

1. 初診患者数

男性	66
女性	85
合計	151

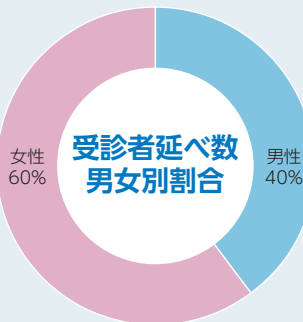
(単位:人)



2. 受診者延べ数

男性	125
女性	188
合計	313

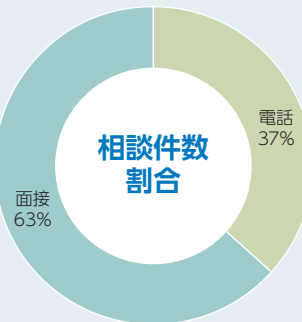
(単位:人)



3. 相談件数

電話	195
面接	336
合計	531

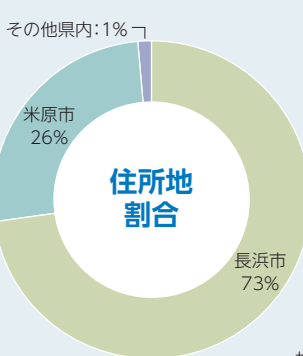
(単位:人)



4. 初診患者の住所地

長浜市	110
米原市	39
その他県内	2
合計	151

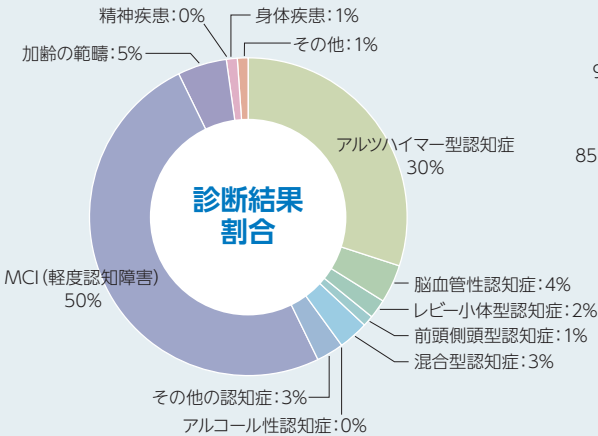
(単位:人)



5. 初診患者の診断結果

アルツハイマー型認知症	46
脳血管性認知症	6
レビー小体型認知症	4
前頭側頭型認知症	2
混合型認知症	4
アルコール性認知症	0
その他の認知症	4
MCI(軽度認知障害)	75
加齢の範疇	8
精神疾患	0
身体疾患	1
その他	1
合計	151

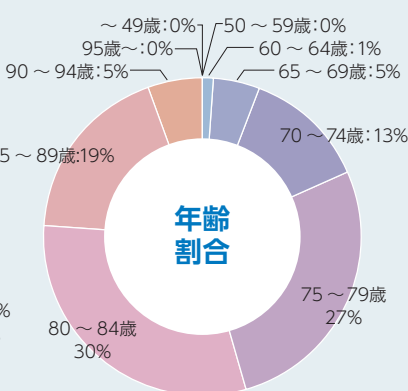
(単位:人)



6. 初診患者の年齢

～49歳	0
50～59歳	0
60～64歳	2
65～69歳	7
70～74歳	19
75～79歳	41
80～84歳	46
85～89歳	28
90～94歳	8
95歳～	0
合計	151

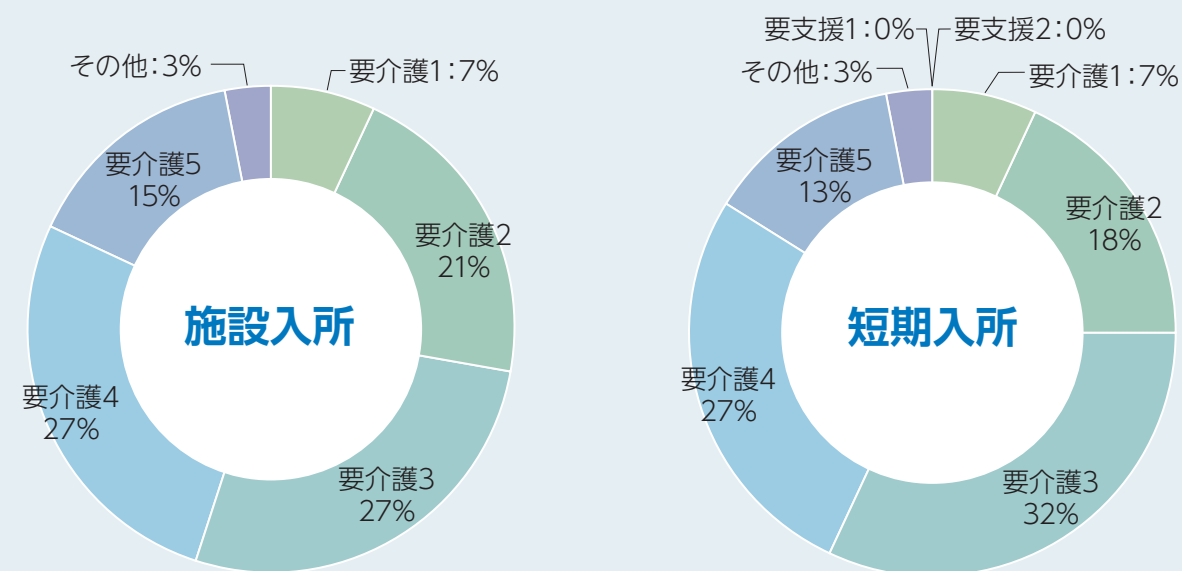
(単位:人)



入所・短期入所 / 定員 (104人)

	施設入所	短期入所
延入所者数 (人)	33,281	5,085
要介護度別 (人)	要支援1	0
	要支援2	7
	要介護1	367
	要介護2	927
	要介護3	1,607
	要介護4	1,393
	要介護5	644
	その他	140
平均入所者数/日 (人)	90.93	13.89
利用率 (%)	100.79	
平均要介護度	3.21	3.20

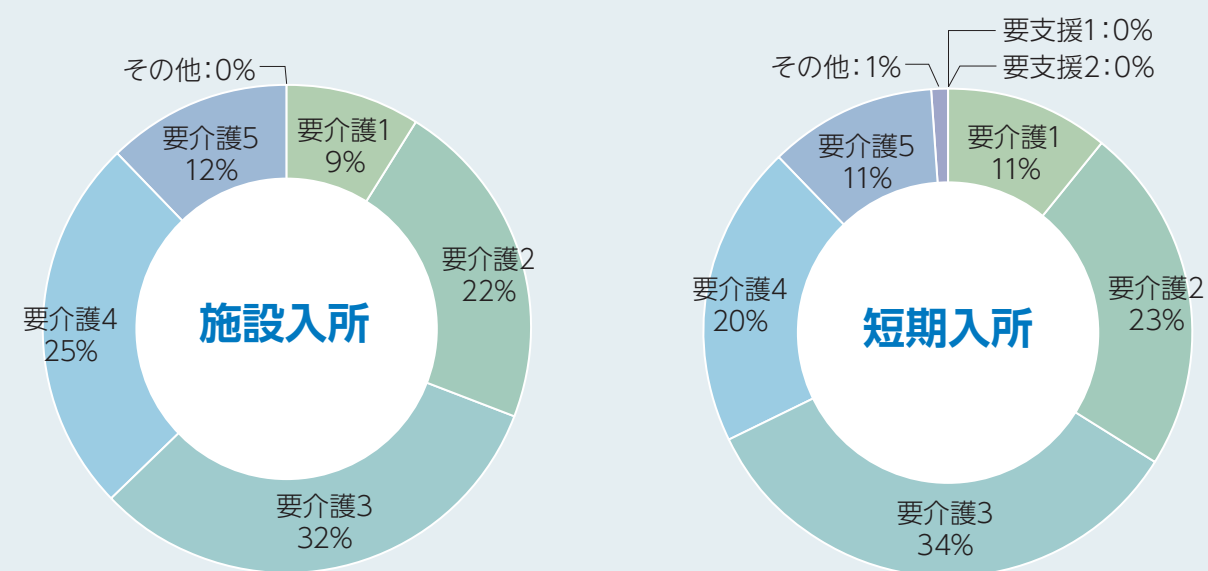
延入所者数 要介護度割合



入所・短期入所 / 定員 (130人)

	施設入所	短期入所
延入所者数 (人)	41,983	3,497
要介護度別 (人)	要支援1	0
	要支援2	0
	要介護1	372
	要介護2	812
	要介護3	1,198
	要介護4	714
	要介護5	383
	その他	18
平均入所者数/日 (人)	114.71	9.55
利用率 (%)	95.59	
平均要介護度	3.11	2.97

延入所者数 要介護度割合

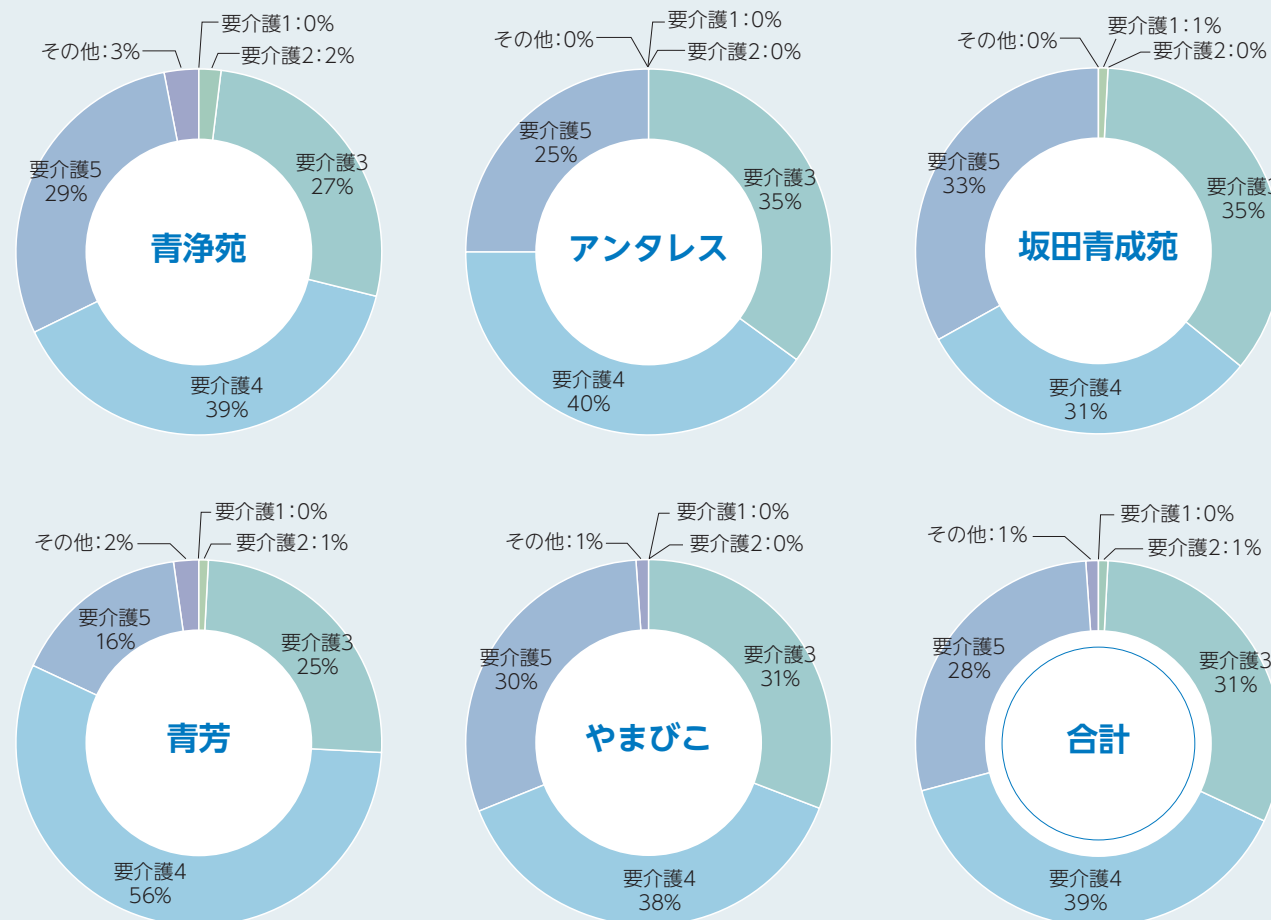


入所

令和5(2023)年7月1日 特別養護老人ホーム青浄苑定員変更 104名→108名
令和5(2023)年7月1日 特別養護老人ホーム青芳定員変更 54名→50名

	青浄苑	アンタレス	坂田青成苑	青芳	やまびこ	合計
入所定員(人)	108	70	100	50	50	378
延入所者数(人)	36,163	24,761	35,382	17,474	17,721	131,501
要介護度別(人)	要介護1	0	0	366	0	366
	要介護2	729	0	0	81	841
	要介護3	9,572	8,743	12,557	4,431	53,303
	要介護4	14,204	9,848	10,904	9,843	54,799
	要介護5	10,634	6,170	11,555	2,813	39,172
	その他	1,024	0	0	306	1,533
平均入所者数/日(人)	98.81	67.65	96.67	47.74	48.42	359.29
利用率(%)	92.34	96.65	96.67	93.62	96.84	95.05
平均要介護度	3.98	3.89	3.94	3.89	3.99	3.94

施設別 要介護度割合

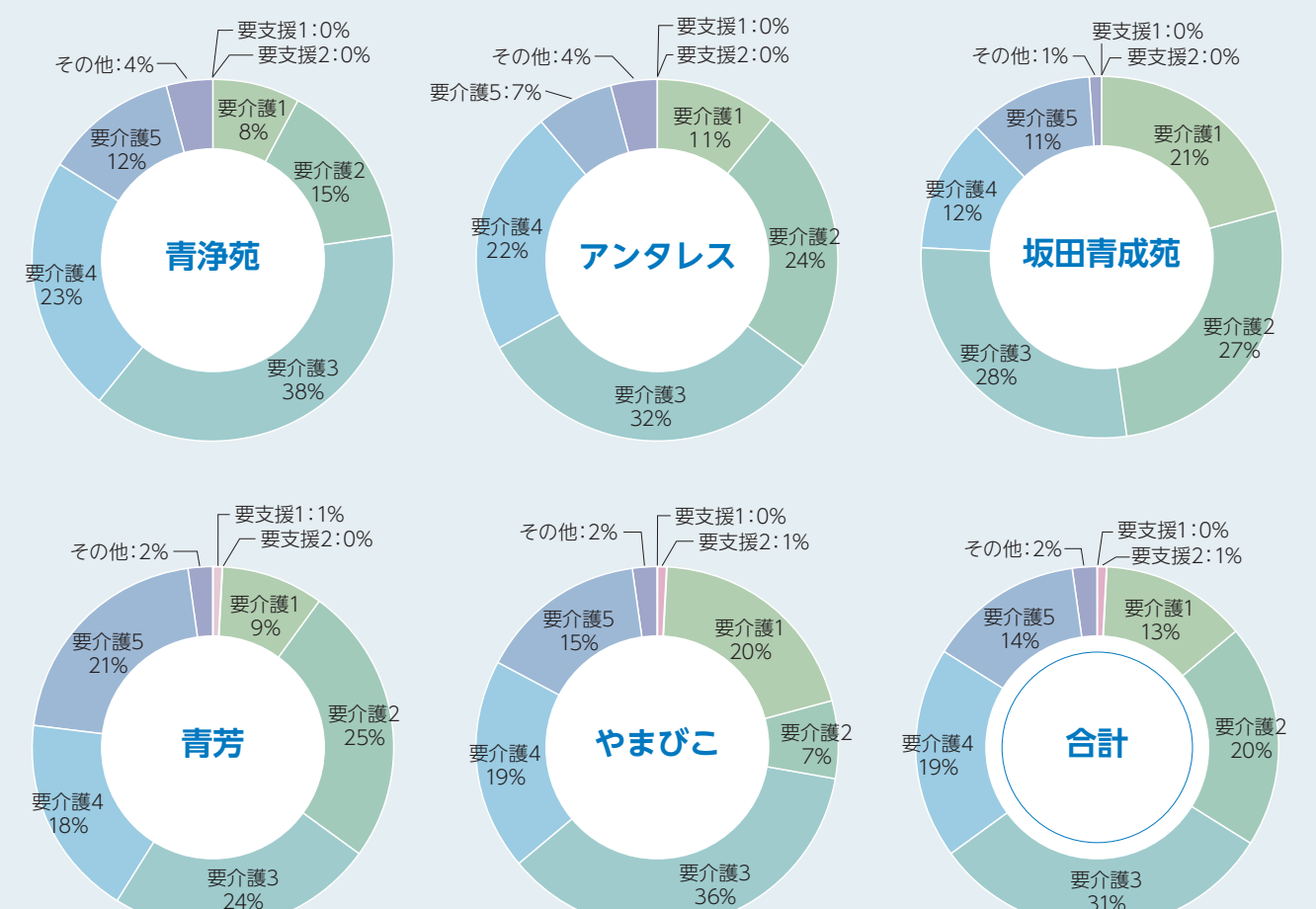


短期入所

令和5(2023)年7月1日 特別養護老人ホーム青浄苑短期入所定員変更 13名→9名
令和5(2023)年7月1日 特別養護老人ホーム青芳短期入所定員変更 16名→20名

	青浄苑	アンタレス	坂田青成苑	青芳	やまびこ	合計
入所定員(人)	9	20	10	20	20	79
延入所者数(人)	2,982	7,136	3,484	6,657	6,014	26,273
要介護度別(人)	要支援1	0	14	0	54	83
	要支援2	0	21	11	20	118
	要介護1	234	748	744	562	3,468
	要介護2	454	1,720	949	1,649	5,214
	要介護3	1,147	2,257	961	1,586	8,083
	要介護4	680	1,598	420	1,220	5,080
	要介護5	354	531	378	1,421	3,610
	その他	113	247	21	145	617
平均入所者数/日(人)	8.15	19.50	9.52	18.19	16.43	71.78
利用率(%)	81.52	97.49	95.19	95.70	82.16	90.87
平均要介護度	3.16	2.90	2.62	3.16	2.99	2.98

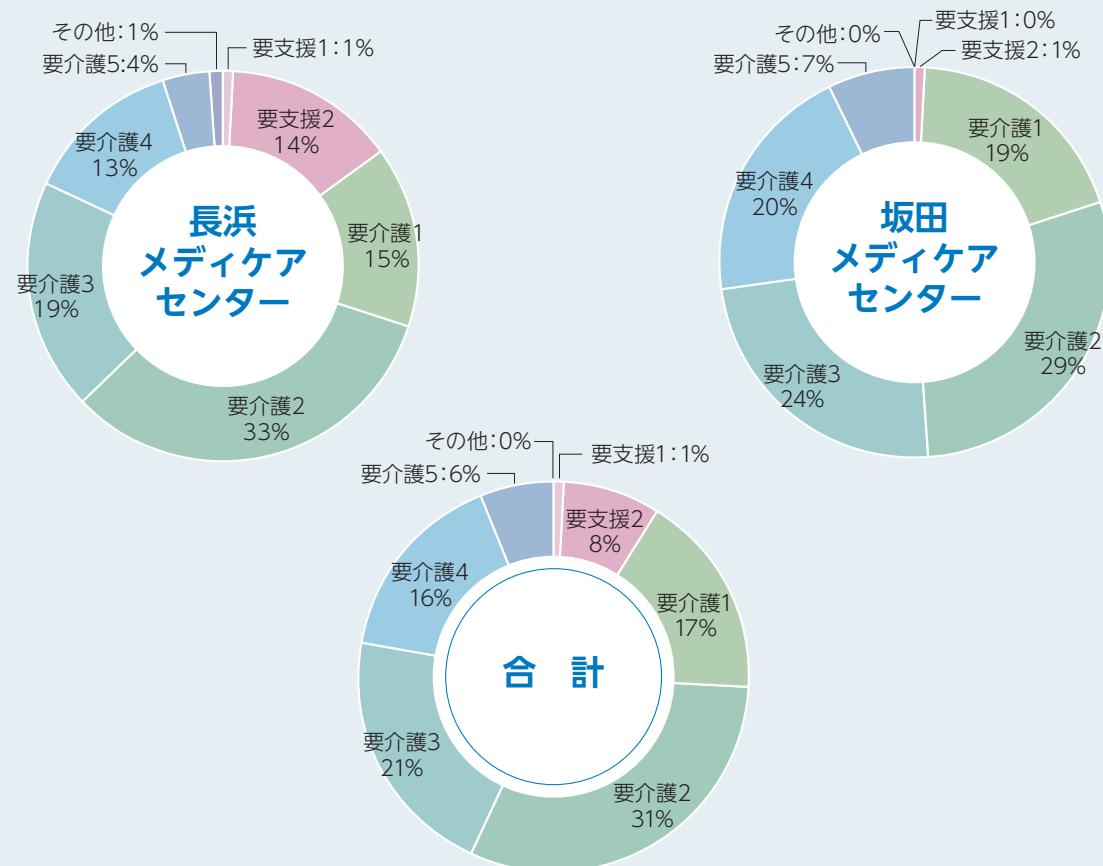
施設別 要介護度割合



通所リハビリテーション

	長浜メディケアセンター	坂田メディケアセンター	合計
定員（人）	40	40	80
稼働日数	307	308	615
延利用者数（人）	6,026	5,158	11,184
要介護度別（人）	要支援1	23	73
	要支援2	39	884
	要介護1	988	1,916
	要介護2	1,498	3,463
	要介護3	1,222	2,339
	要介護4	1,012	1,826
	要介護5	375	636
	その他	1	47
平均利用者数／日（人）	19.63	16.75	18.19
利用率（％）	49.07	41.87	45.46
平均要介護度	2.19	2.63	2.39

施設別 要介護度割合

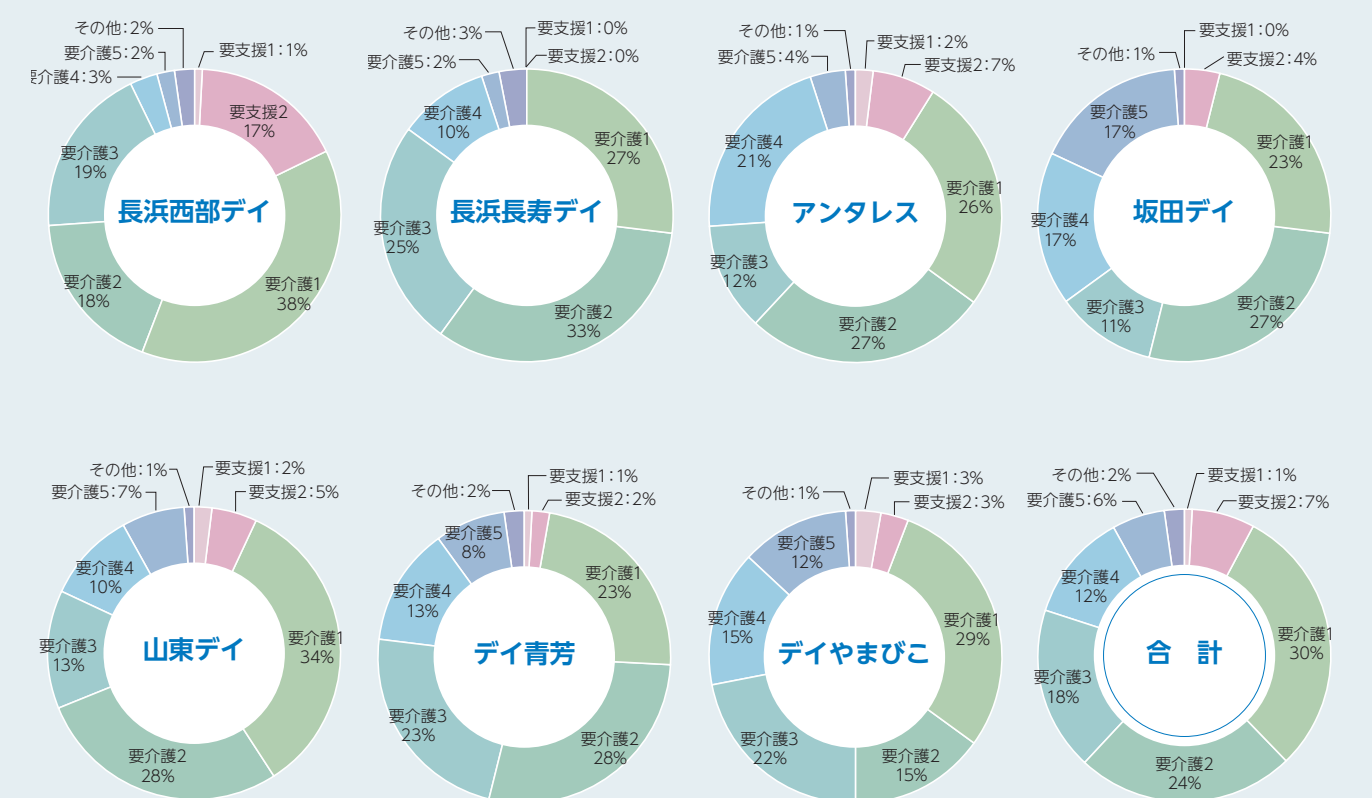


通所介護

令和5（2023）年7月31日 坂田デイサービスセンター休止
令和5（2023）年8月1日 山東デイサービスセンター定員変更 30名→40名

	長浜西部デイ	長浜長寿デイ	アンタレス	坂田デイ	山東デイ	デイ青芳	デイやまびこ	合計
定員（人）	40	12	40	30	40	40	40	242
稼働日数	309	309	307	104	308	310	309	1,956
延利用者数（人）	6,893	2,705	7,550	1,093	7,223	6,401	6,792	38,657
要介護度別（人）	要支援1	0	117	0	106	83	189	546
	要支援2	0	534	46	370	119	233	2,501
	要介護1	721	1,986	254	2,458	1,447	1,961	11,438
	要介護2	900	2,049	298	2,032	1,770	1,029	9,350
	要介護3	685	902	118	962	1,500	1,529	6,975
	要介護4	265	1,607	189	710	835	992	4,789
	要介護5	50	273	181	516	537	786	2,486
	その他	84	82	7	69	110	73	572
平均利用者数／日（人）	22.31	8.75	24.59	10.51	23.45	20.65	21.98	132.24
利用率（％）	55.77	72.95	61.48	35.03	64.03	51.62	54.95	56.39
平均要介護度	1.62	2.24	2.25	2.65	2.09	2.49	2.47	2.20

施設別 要介護度割合



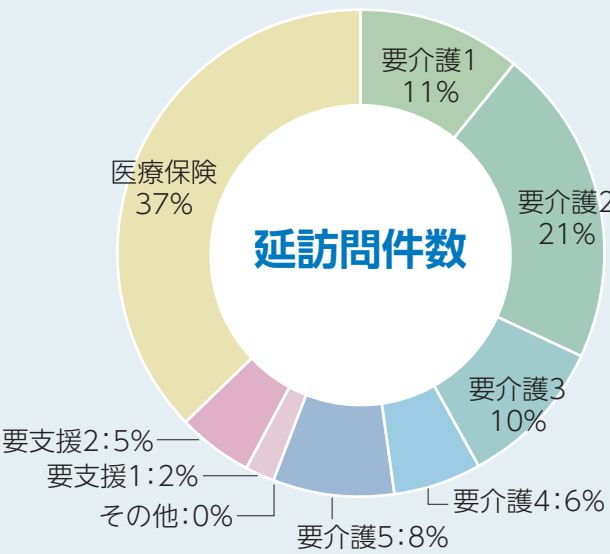
訪問看護ステーション/ホームヘルパーステーション

ケアプランセンター

アンタレス
訪問看護ステーション
訪問件数 (令和5年度延べ数)

	延訪問件数
要介護1	878
要介護2	1,676
要介護3	777
要介護4	535
要介護5	632
その他	0
要支援1	146
要支援2	386
医療保険	2,928
延件数	7,958

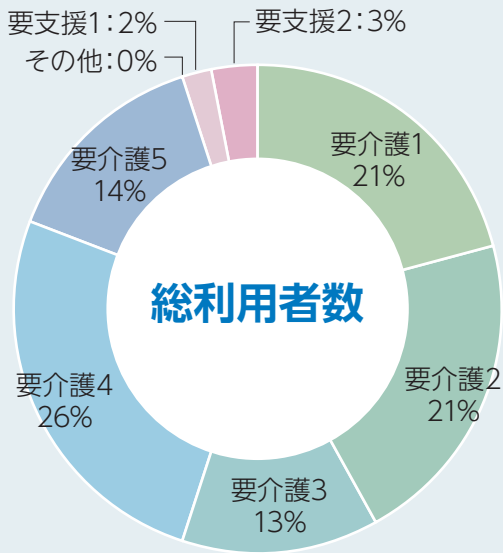
要介護度割合



アンタレス
ホームヘルパーステーション
利用者数 (令和5年度延べ数)

	延利用者数
要介護1	5,941
要介護2	5,815
要介護3	3,616
要介護4	7,361
要介護5	4,101
その他	37
要支援1	655
要支援2	813
延件数	28,339

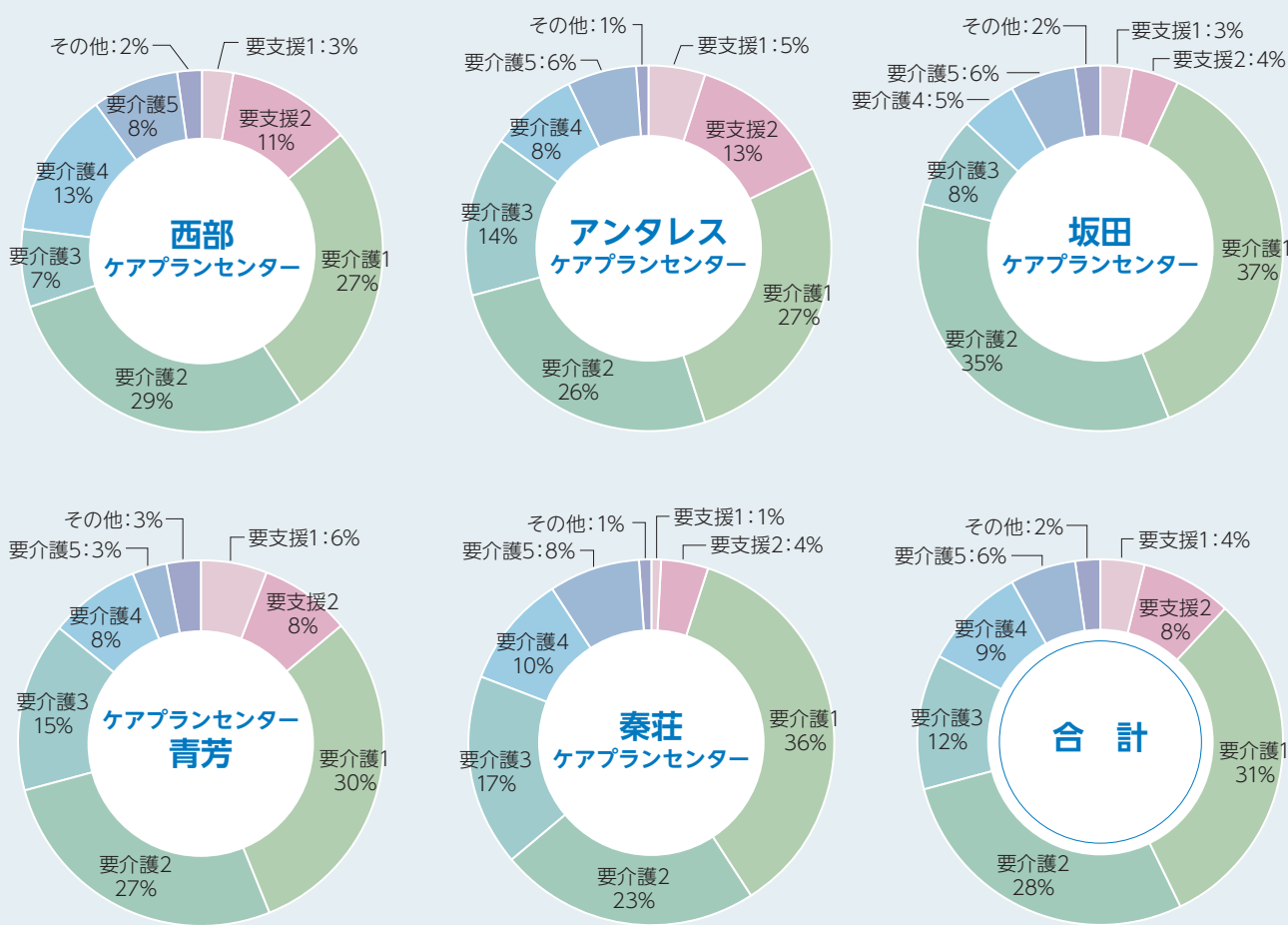
要介護度割合



ケアプラン作成件数

	西部 ケアプラン センター	アンタレス ケアプラン センター	坂田 ケアプラン センター	ケアプラン センター 青芳	秦荘 ケアプラン センター	合計
延件数	1,330	2,297	1,520	1,118	1,309	7,574
要支援1	39	123	41	64	11	278
要支援2	145	295	65	86	59	650
要介護1	351	614	561	341	475	2,342
要介護2	390	597	531	300	297	2,115
要介護3	90	319	123	167	220	919
要介護4	178	181	70	96	128	653
要介護5	109	130	99	34	104	476
その他	28	38	30	30	15	141
平均要介護度	2.09	1.90	1.88	1.88	2.15	1.97

施設別 要介護度割合

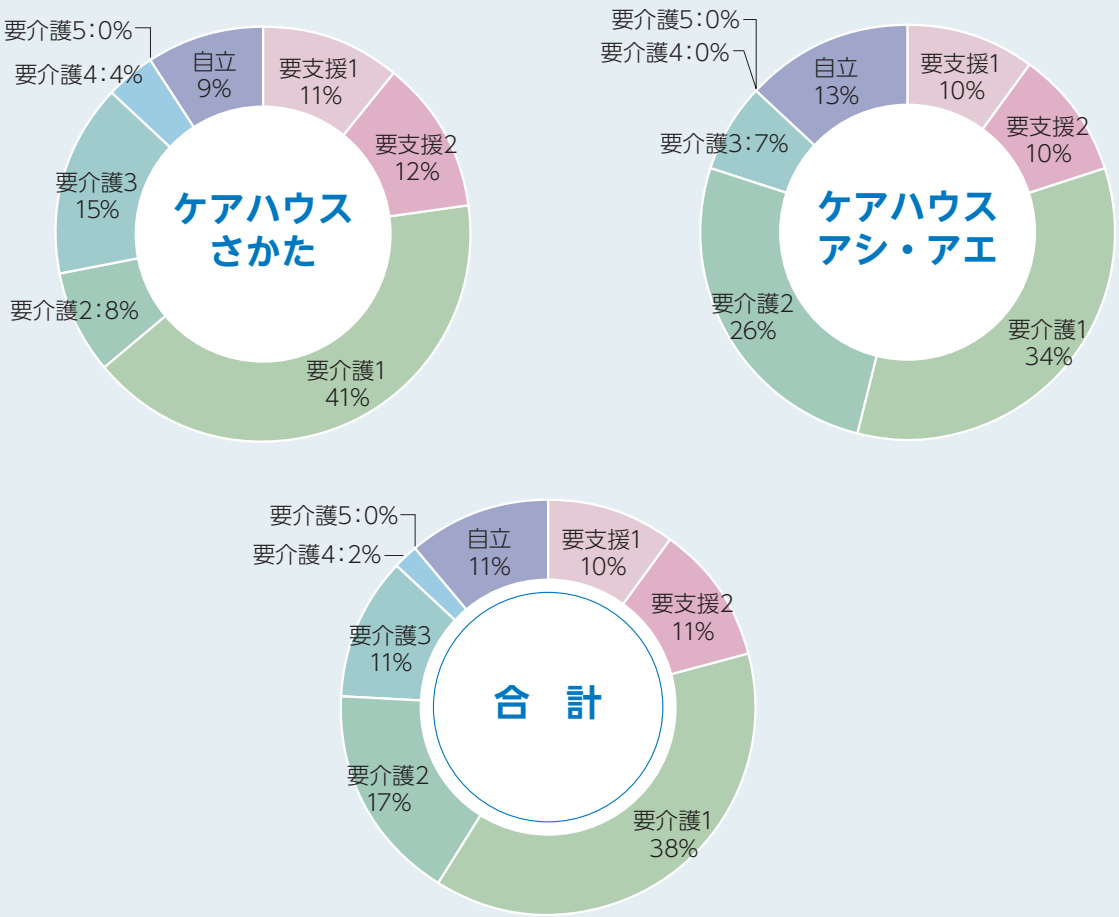


ケアハウス

延入居者数 (令和5年度延べ数)

	ケアハウスさかた	ケアハウスアシ・アエ	合計
定員(人)	15	15	30
要支援1	579	519	1,098
要支援2	672	548	1,220
要介護1	2,236	1,860	4,096
要介護2	426	1,399	1,825
要介護3	825	391	1,216
要介護4	226	0	226
要介護5	0	0	0
自立	488	724	1,212
延件数	5,452	5,441	10,893

施設別 要介護度割合

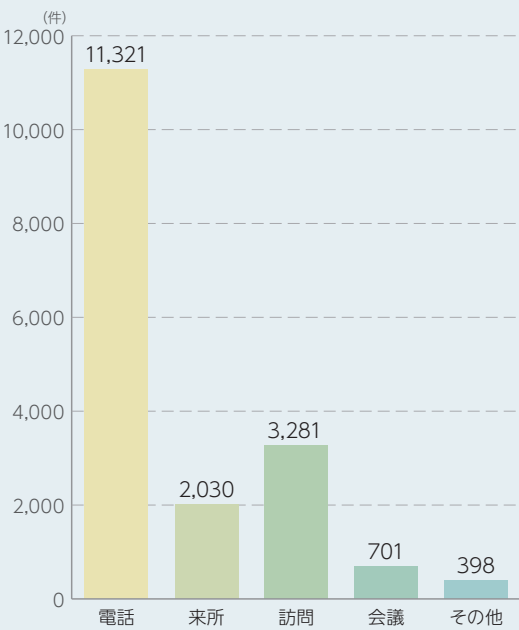


南長浜地域包括支援センター

総合相談支援事業の状況

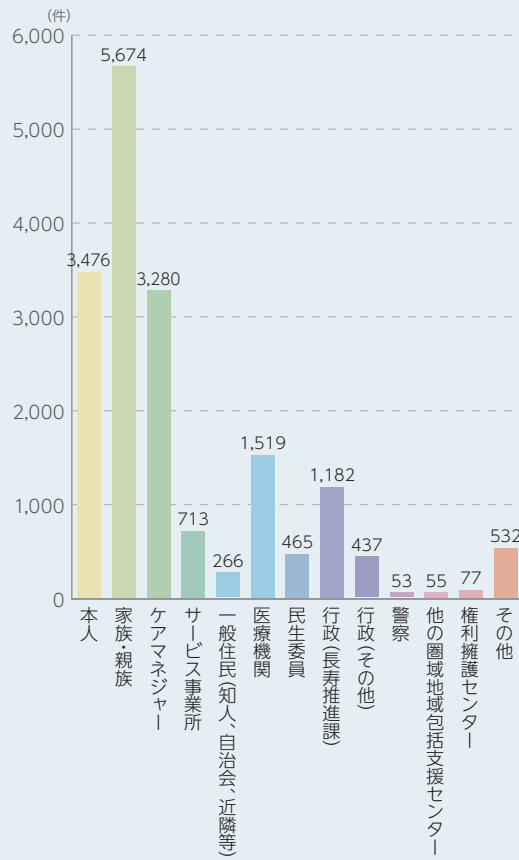
相談形態

	(件数)
電話	11,321
来所	2,030
訪問	3,281
会議	701
その他	398
合計	17,731



相談相手の構成

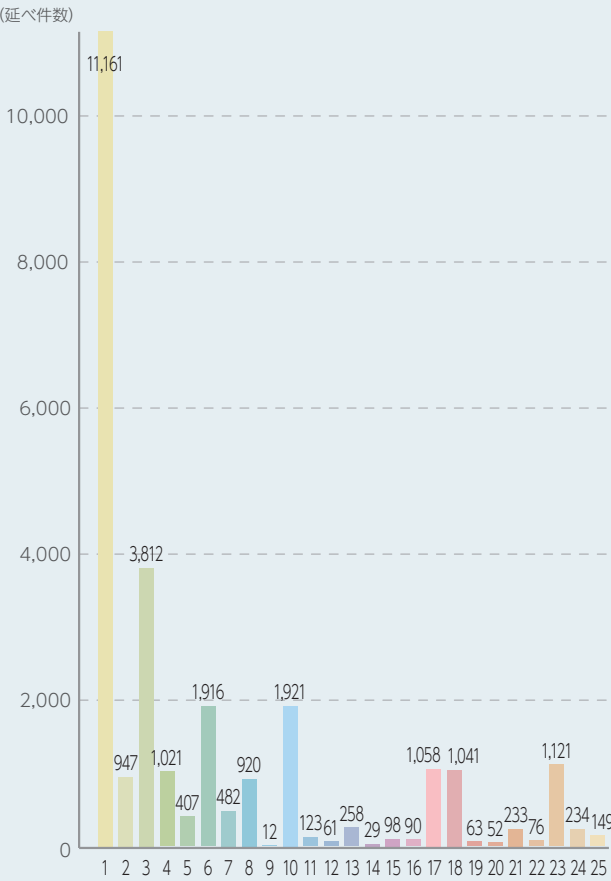
	(件数)
本人	3,476
家族・親族	5,674
ケアマネジャー	3,280
サービス事業所	713
一般住民(知人、自治会、近隣等)	266
医療機関	1,519
民生委員	465
行政(長寿推進課)	1,182
行政(その他)	437
警察	53
他の圏域地域包括支援センター	55
権利擁護センター	77
その他	532
合計	17,729



相談・対応内容

(延べ件数)

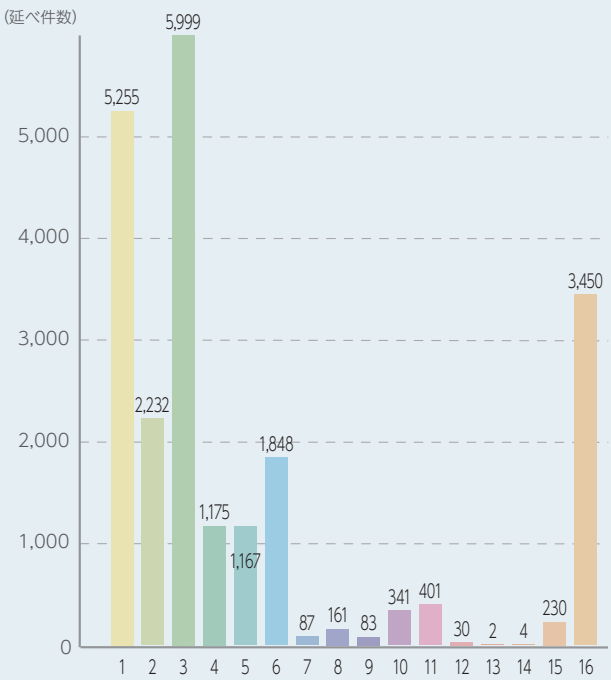
1.	介護（介護保険を含む）に関する相談	11,161
2.	介護予防（総合事業を含む）に関する相談	947
3.	認知症に関する相談	3,812
4.	医療に関する相談	1,021
5.	施設・住居に関する相談	407
6.	虐待に関する相談	1,916
7.	権利擁護・成年後見に関する相談	482
8.	経済的な困窮等に関する相談	920
9.	苦情相談	12
10.	主任ケアマネ業務	1,921
11.	実態把握業務	123
12.	個別支援会議（地域ケア会議）	61
13.	個別ケース会議（困難事例等）	258
14.	地域連携パス（大腿骨頸部骨折）	29
15.	地域連携パス（脳卒中）	98
16.	その他の会議	90
17.	支援困難ケース（精神疾患）	1,058
18.	支援困難ケース（その他）	1,041
19.	運転免許に関する相談	63
20.	移動手段に関する相談	52
21.	しょうがい福祉に関する相談	233
22.	ハラスメントに関する相談	76
23.	複合的な課題を持つ世帯の相談	1,121
24.	その他相談	234
25.	その他	149
合計		27,285



相談対応

(延べ件数)

1.	相談のみ	5,255
2.	情報提供	2,232
3.	連絡・調整	5,999
4.	家庭訪問	1,175
5.	確認	1,167
6.	介護保険サービス利用支援	1,848
7.	総合事業サービス利用支援	87
8.	住宅改修・福祉用具購入の支援	161
9.	その他福祉サービス利用の支援	83
10.	ケアマネ支援	341
11.	介護保険代行申請手続き	401
12.	その他福祉サービス代行申請手続き	30
13.	取次・斡旋	2
14.	ケース検討	4
15.	その他会議	230
16.	その他	3,450
合計		22,465



編集後記

令和5年度の年報が完成しました。

令和5年度もコロナ禍での活動となりましたが、新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日付けで2類相当から5類へ移行となり、政府の方針が緩和されるなか、青祥会では法人独自の基準を制定し、感染防止対策に取り組んで参りました。今後も引き続きこれまでの経験を活かし医療・介護等の連携により感染防止対策に取り組んで参ります。本誌では5類へ移行となる前の5月7日以前と、5類移行となった5月8日以降の青祥会の新型コロナウイルス感染防止対策を取り纏めて掲載しておりますので、ご確認いただければと思います。

一方で、学会や研究会等の演題発表や出前講座開催等の地域貢献活動を再開しております。また一部の法人行事も再開し、平時の活動に向けて徐々にではありますが、様々な活動を再開することができました。引き続き感染防止対策を徹底しつつ各種活動の拡大に取り組んで参ります。

地域の皆様方、関係機関の皆様方には、本誌をご覧いただくことにより、青祥会の現況、活動内容をより深くご理解いただければ幸いです。

法人の1年間の活動の軌跡となる年報が今後も継続的に発行され、法人内外の皆様にとって魅力ある冊子となるよう、職員一同、益々業務に邁進して参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

年報作成プロジェクトチーム

発行 令和6年11月
社会福祉法人 青祥会
編集 年報作成プロジェクトチーム
発行者 社会福祉法人 青祥会
理事長 畑下 嘉之
〒526-0828 滋賀県長浜市加田町3360
TEL 0749-68-4114
<https://www.seishokai.jp/>
印刷 株式会社ヤマプラ